



ヤマハ PAS Brace
(パス ブレイス)
(PV26S)
PAS Brace L
(パス ブレイス エル)
(PV26SL)



取扱説明書



お願い

- PAS の納車時に販売店から、PAS の使用方法について十分に説明を受けてください。
- 本書と保証書／点検・整備の記録は、紛失しないよう大切に保管し、ご活用ください。
- お客様登録票（盗難保険カード）はがきは、購入後 7 日以内に投函してください。
- PAS を他の人にお譲りになる場合は、取扱説明書も一緒にお渡しください。
- 保証書は「販売店名、お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。記入がもれている場合は、販売店にご請求ください。

注意

この自転車は一般用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないようお願いします。

仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。

X70-28199-J0▲

もくじ

はじめに

前書き	4
-----------	---

安全運転のために

PAS を安全に使用するために	5
自転車に安全に乗るために	8
自転車の交通ルールについて	12

PAS について

PAS のしくみ	15
各部の名称	16

バッテリーについて

バッテリーの取り扱いについて	18
バッテリーの特徴	20
バッテリーの交換について	22

充電しましょう

バッテリー充電をする前に	24
充電する場所	28
バッテリーの脱着	30
充電のしかた	32
充電状態の見かた	33
充電時間の目安	35

乗る前に

乗車前点検	36
バッテリー残量の確認	40
走行モードの切り替えかた	41
走行モードの使い分けかた	44
一充電あたりの走行距離	48
フロントサスペンションフォークの調整	52
ハンドルポジションの調整	53
前輪クイックリリースハブの使いかた ..	57

乗りましょう

発進のしかた	64
変速のしかた	65
ヘッドライトの取り扱い	67
荷物の積載	70
バッテリー残量ランプの表示と目安	71
アシストが作動しない環境	73
駐輪のしかた	74
ワイヤーロックの使いかた	75

お手入れと保管

お手入れのしかた	76
保管のしかた	79

ごぞんじですか？

もしもこんなときは	81
定期点検／ 普通自転車点検整備済み TS マーク ...	87
保証制度／型式認定済マーク	88
BAA マーク	89
ヤマハ PAS 盗難保険について	91
製品仕様	94

前書き

このたびは、ヤマハ＜PAS＞をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。
ヤマハ＜PAS＞はパワーアシストシステムを搭載している自転車です。自転車に乗れる方なら手軽に乗ることができます。

しかし、自転車とは異なる点もございますので、お乗りいただく前に必ず、本書をお読みいただき、本製品をご理解のうえ、ご使用ください。

お子様がお使いになる場合は、保護者の方が本書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検・整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで区分しています。



安全にかかわる注意情報を示してあります。



取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。

注意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要 点

正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。



安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。

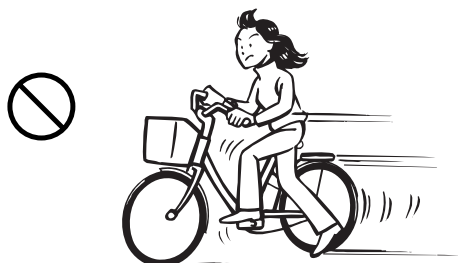
PAS を安全に使用するために

警告

けんけん乗りをしない

けんけん乗り（片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた）はしないでください。

けんけん乗りをした場合、PAS のアシストが作動して PAS だけが前に進み、体を取り残される可能性があります。また、転倒や接触事故につながるおそれがあります。

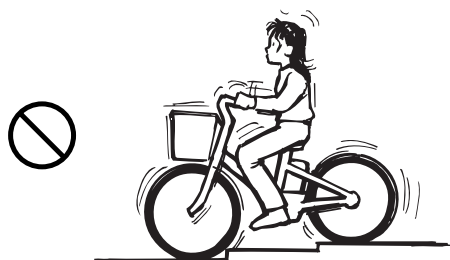


電動アシスト自転車の発進特性に不慣れなうちは、車通りや人通りの多い一般道で乗らない

- 電動アシスト自転車は普通の自転車より軽いペダル踏力で発進できますが、慣れないうちに普通自転車と同じ感覚でペダルを強く踏み込むと、普通自転車以上に加速するため、驚いて転倒したり衝突したりするおそれがあります。
- 慣れるまでは安全な場所でよく練習しましょう。
- 慣れるまではアシストレベルを“LOW”にして走行しましょう。
- 無理な走行（スピードの出しすぎ、急坂の走行）をしないでください。年齢や体力に合わせた走行をしましょう。



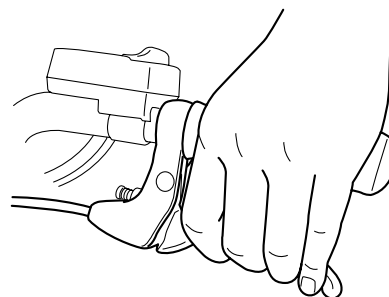
凹凸の激しいところを走らない （歩道の段差や、溝など）



フレームや車輪、またはドライブユニットなどが損傷し、転倒によるけがのおそれがあります。

- 自転車から降りて、押して歩いてください。

停車しているときは、前後輪ブレーキをかける。その際、ペダルに足を乗せない。



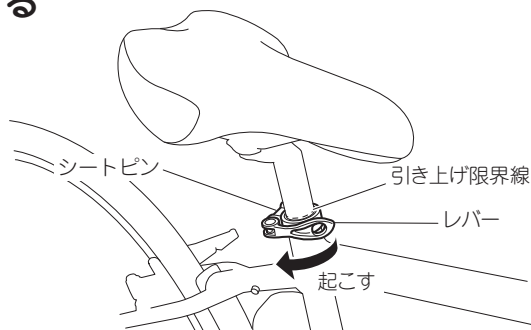
不用意にペダルに足を乗せたときなど、PAS のアシストが作動する場合があります。

- 停車しているときは、前後輪ブレーキをかけ、ペダルに足を乗せないでください。

PAS を安全に使用するために



サドルの高さ調整をするときは、引き上げ限界線が見えない範囲で調整する



最も高くした場合でも、引き上げ限界線がフレームから、はみださないようにしてください。

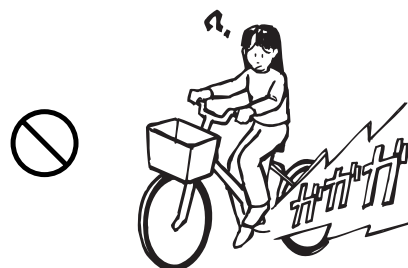
シートポストが破損したり、脱落したりして、けがをするおそれがあります。

- シートピンのレバーを矢印の方向に起こし、サドルの高さを調節します。このとき、引き上げ限界線が見えない範囲で調整してください。
- 調整後はシートピンのレバーを確実に倒して、シートピンをロックしてください。
- シートピン締め付け後、サドルが確実に固定されていることを確認してください。
- サドルの高さ調整は運転中に行わないでください。

夜間走行の前には必ず、ヘッドライトの点灯状態を確認する

このPASのヘッドライトは乾電池を電源としています。アシスト走行用のバッテリーではヘッドライトは点灯しませんので、夜間走行前には必ずヘッドライトの点灯状態を確認してください。

異常があるときは乗らない



事故や転倒によるけがのおそれがあります。

- バッテリー残量ランプが点滅(P82)しているなど、異常を発見したらすぐに販売店にご相談ください。

パワーアシストシステム構成部品の分解や注油をしない



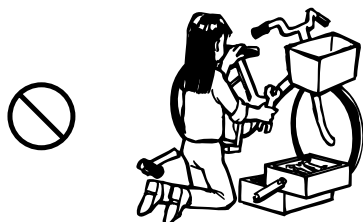
故障や誤作動による事故やけがのおそれがあります。

- パワーアシストシステムのパワーユニット部やモーター部、コントローラー、バッテリーなどは大変精密な部品で構成されていますので、分解したり、注油したりしないでください。
- 「故障したかな」と思ったときは、「もしもこんなときは…」(P81)を参照の上、販売店にご相談ください。

PAS を安全に使用するために

警告

自分で改造しない



部品が破損したり、外れたりして転倒によるけがのおそれがあります。

- 修理や、パーツの取り付けは販売店にご相談ください。

アクセサリや交換部品は純正部品以外は使用しない



部品の破損などによりけがのおそれがあります。

- タイヤなどの消耗品やアクセサリなどの部品は、販売店にご相談の上、必ず純正部品を指定して取り付けてください。それ以外の市販品を使用しますと事故や故障の原因になることがあります。また保証の適用が受けられない場合があります。

安全運転のために

注意

乗る前に必ず乗車前点検をする

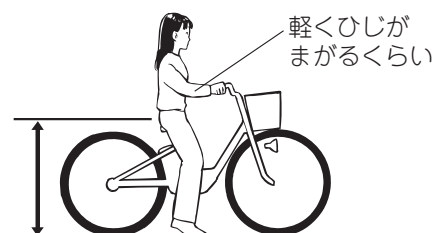
- 乗る前には必ず点検を行ってください。(P36 ~ 39)
- 不明な点がありましたら販売店にご相談ください。

要点

正しい姿勢で走行できるよう調整する。
お買い求めの販売店でサドルやハンドルの位置などを自分に合った高さに調整してもらいましょう。

適応身長
157cm 以上

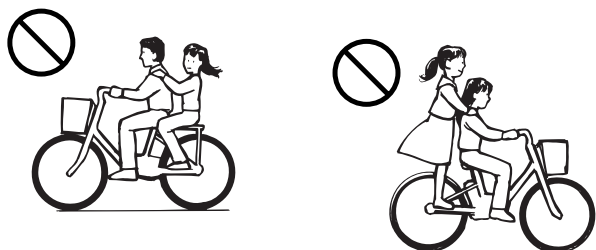
両足のつまさきが地面につくくらいのサドルの高さ



自転車を安全に乗るために

警告

二人乗りはしない



転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

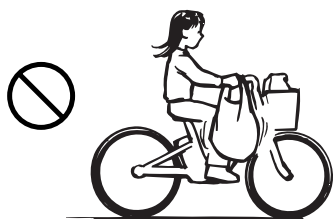
手放しや傘をさしながらの運転はしない



バランスがとりにくくなり、転倒によるけがのおそれがあります。

●合図する時以外は両手でしっかりハンドルを握って運転してください。

手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつないだりしない



荷物やひもが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒し、けがのおそれがあります。

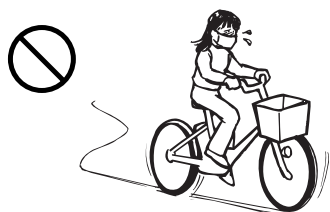
●荷物は、オプションのリヤキャリアを使用して積んでください。

乱暴な乗りかたはしない (アクロバットのな乗りかたや急発進、急旋回など)



転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

飲酒時やかぜ薬など服用時、および体調が優れないときは乗らない



運動機能が低下し、衝突などによるけがのおそれがあります。

滑りやすい靴や、かかとの高い靴などをはいて乗らない



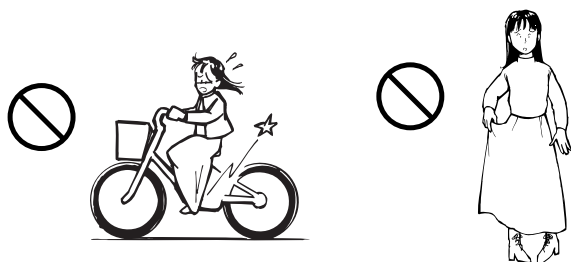
足がペダルから外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

自転車を安全に乗るために

警告

車輪やチェーンに巻き込まれやすい
服装は避ける

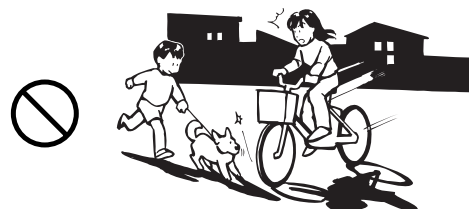
(長いスカートや長いマフラーなど)



転倒によるけがのおそれがあります。

- すそが広がっているズボンはバンドやゴムで留めるようにしてください。

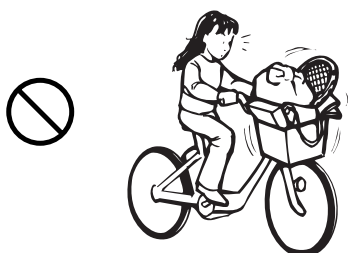
視界の悪いときは、無灯で乗らない
(夜間や霧、トンネル内など)



見通しが悪くなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

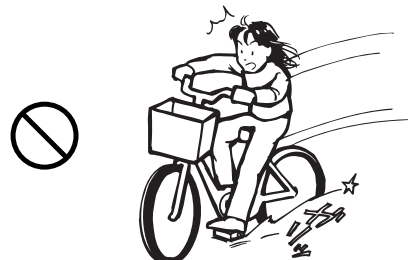
- 必ず前照灯を点灯してください。もし前照灯がつかないときは、押して歩いてください。

積載条件から外れる荷物を積まない
(P70)



バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

カーブで曲がる側のペダルを下げない



ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

滑りやすいところでは乗らない
(積雪や凍結した道、濡れている鉄板やマンホール、ぬかるみなど)



スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

- 自転車から降りて、押して歩いてください。

片側だけのブレーキ操作はしない



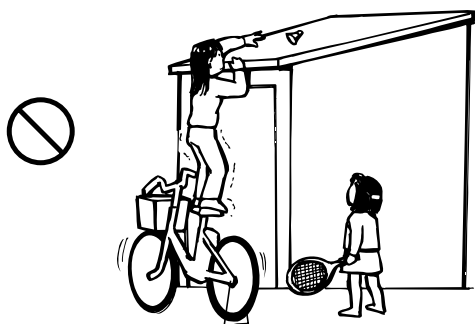
スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

- ブレーキは必ず前後ともにかけてください。

自転車を安全に乗るために

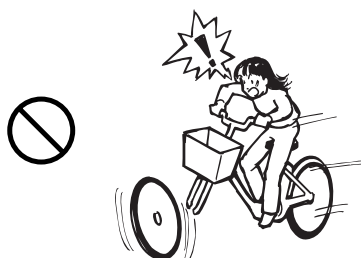
警告

踏み台代わりなど走行以外に使わない



転倒によるけがのおそれがあります。

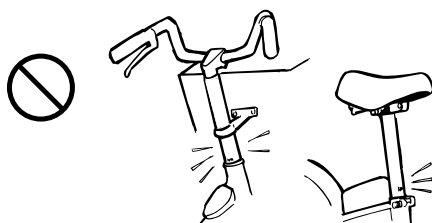
車輪の脱着やサドルの調整後、締め付けを確認せずに乗らない



車輪やサドルが外れて転倒によるけがのおそれがあります。

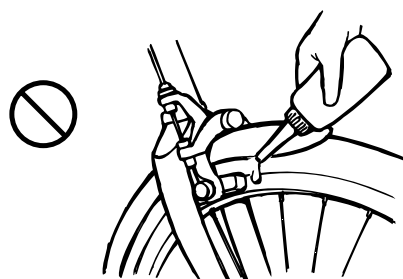
●必ず乗る前に点検してください。

サドルやハンドルは引き上げ限界線が見える状態で乗らない



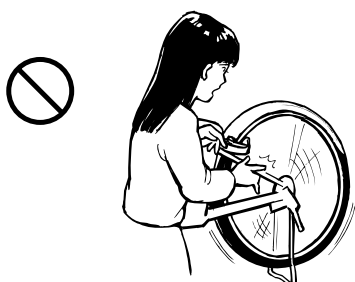
サドルやハンドルが折れて衝突や転倒を招き、けがのおそれがあります。

ブレーキの制動面やタイヤ、リムに注油しない



ブレーキが効かなくなり、衝突によるけがのおそれがあります。

車輪・チェーンなどの回転部に手や足、ものなどを近づけない
また、子供を近づけさせない



車輪やチェーンに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

この車両は、子供乗せ機を使用して二人乗りをすることはできません

この車両は、子供乗せ機を使用して二人乗りができるような設計をしていません。
(オプションで販売しているリヤキャリア使用時を含む)

自転車を安全に乗るために

警告

傘やステッキ、釣り竿などを車体に差し込んだり、車輪の近くにつり下げて走らない

車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつくて、転倒やけがなどのおそれがあります。

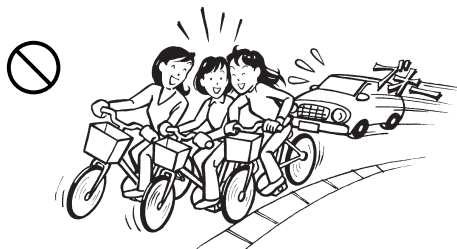
自転車が完全に止まってから降りる

自転車が完全に止まる前に飛び降りるようにして降りると、バランスを崩して転倒やけがのおそれがあります。

走りながら携帯電話をかけたり、メール操作などをしない

片手運転と前方不注意により、衝突・転倒のおそれがあります。

並進をしない



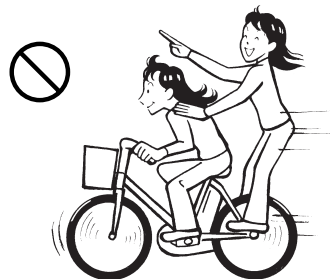
自動車などと接触して、事故につながるおそれがあります。

- 必ず、一列で走行してください。

整備不充分的ブレーキのままで走行しない（P87）

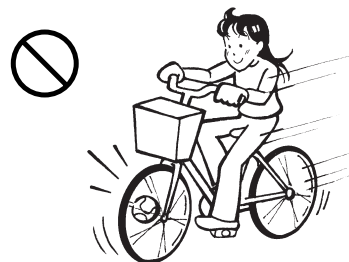
- 赤さびになったケーブル、ほつれたケーブル、大きく摩耗したブレーキシューなどは制動力を低下させ、衝突・転倒のおそれがあります。速やかに販売店で、点検・交換をしてください。
- 乗る前には安全な広い場所で、前後のブレーキが正しく作動するか必ず確認してください。
- ブレーキレバーの握りしろについては「乗車前点検」の項目を参照してください。
- 雨天のときは、晴天のときより制動距離が長くなります。スピードを控えて、早めの滑らかなブレーキ操作をしてください。

ハブステップを使用しない



人が乗ると折れる場合があります。また、先端が自動車などと接触して、事故につながるおそれがあります。

スポークに物を入れて走らない



スポークの間に固形物（ボールなど）を入れて走ると、思わぬときに落ちて、事故につながるおそれがあります。

自転車の交通ルールについて

⚠ 警告

PAS をより快適に、そして安全に乗るため交通ルールを守って安全運転を心がけましょう。安全に運転するために以下のようなことに気をつけてください。

守らないと衝突や転倒などによるけがのおそれがあります。

1 さあ、発進しましょう

- 走りだすときは、道路の左側から発進します。
- 周囲の安全確認を忘れずに。
- 後方から来る車にスタートの合図をします。
- スタートの合図のしかた
右手を地面と平行に真横にだします。

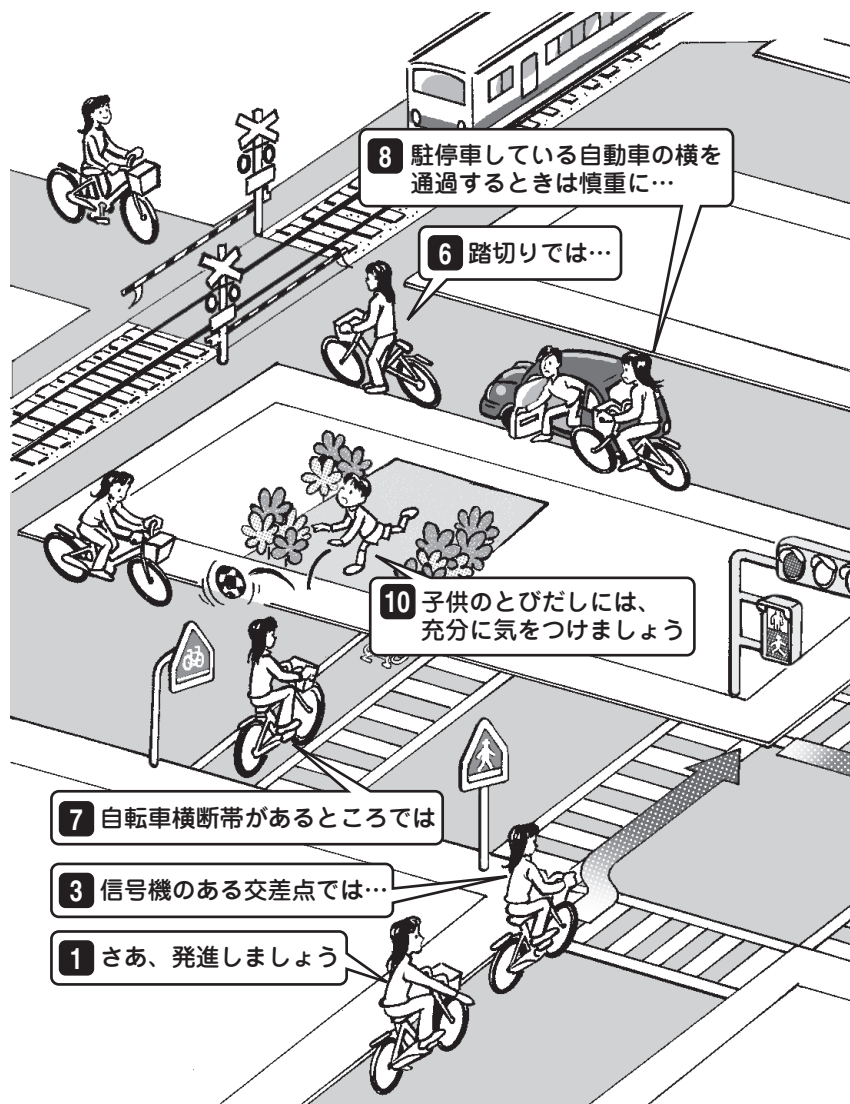
2 道路の左側を走りましょう

自転車は左側通行が原則です。また、歩道のない道路では、つねに歩行者優先を心がけましょう。

3 信号機のある交差点では…

信号をしっかり守り、横断しましょう。

- 正面の信号が青のとき、直進、左折ができます。
- 右折するときは、2段階右折をしてください。
- 2段階右折のしかた
正面の信号が青になったら一旦向こう側までわたり、止まります。次に右側の信号が青になってから進みます。

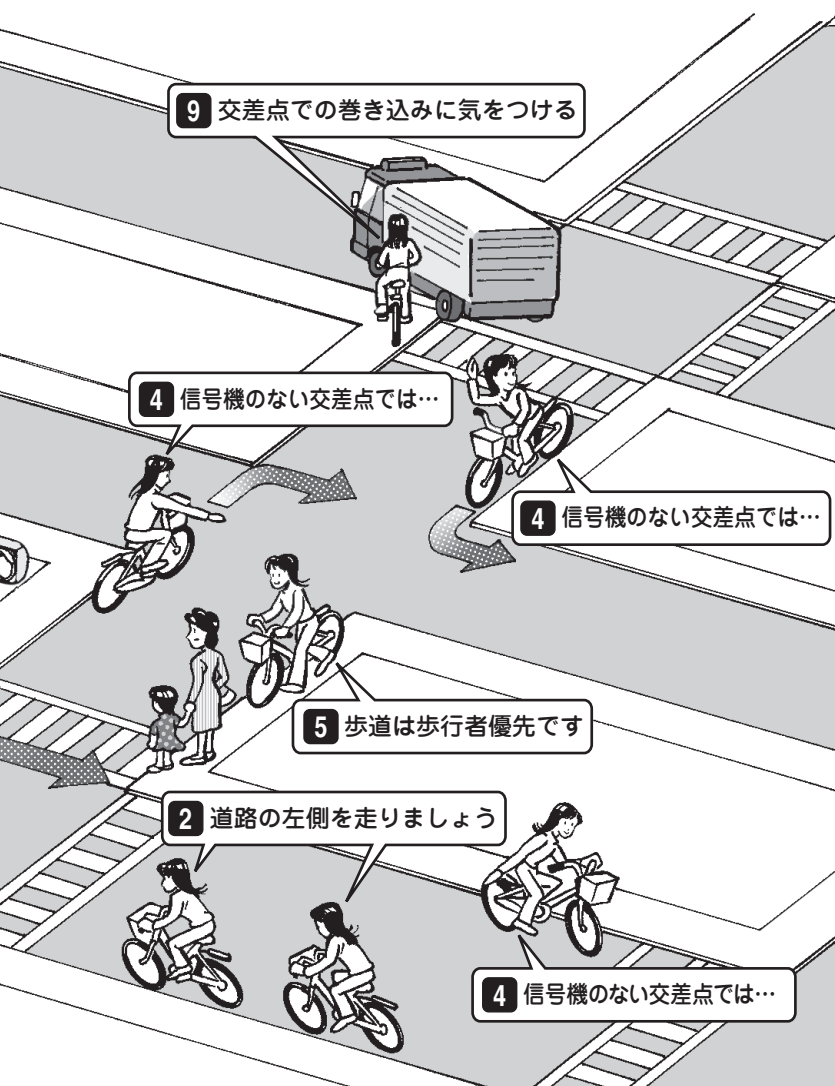


4 信号機のない交差点では…

信号機のない、見通しの悪い交差点では、周囲の安全を充分に確かめてから進みます。

- 曲がるときは合図をしましょう。
右折・左折とも、30m くらい手前から合図をだします。
- 右折／右手を地面と平行に真横にだします。
- 左折／右手を地面と平行に真横にだし、さらにひじを直角に上に曲げます。
- 停止／右手を斜め下にだします。

自転車の交通ルールについて



5 歩道は歩行者優先です

自転車の通行が許可されている歩道でも、歩行者の迷惑となる場合は、一旦 PAS から降りて押して歩くようにしましょう。

歩行者に危害をおよぼすおそれがある突起物を装着してはいけません。

6 踏切りでは…

一旦 PAS から降りましょう。
踏切りをわたるときは、踏切りの手前で停車し、自転車の左側に降りてください。
遮断機が上がっている場合も、安全を確認してからわたるように心がけましょう。

7 自転車横断帯があるところで

自転車横断帯の表示がある横断帯ではそこを通行しなければなりません。



8 駐停車している自動車の横を 通過するときは慎重に…

駐停車している自動車や、渋滞などで止まっている自動車は、急にドアが開くおそれがあります。あらかじめスピードを充分に落としてから通過するようにしましょう。

9 交差点での巻き込みに気をつける

交差点はいちばん事故が起こりやすいところです。特に左折時の大型車による巻き込み事故には十分に気をつけましょう。左折時は周囲の安全を確かめてから曲がるようにしましょう。

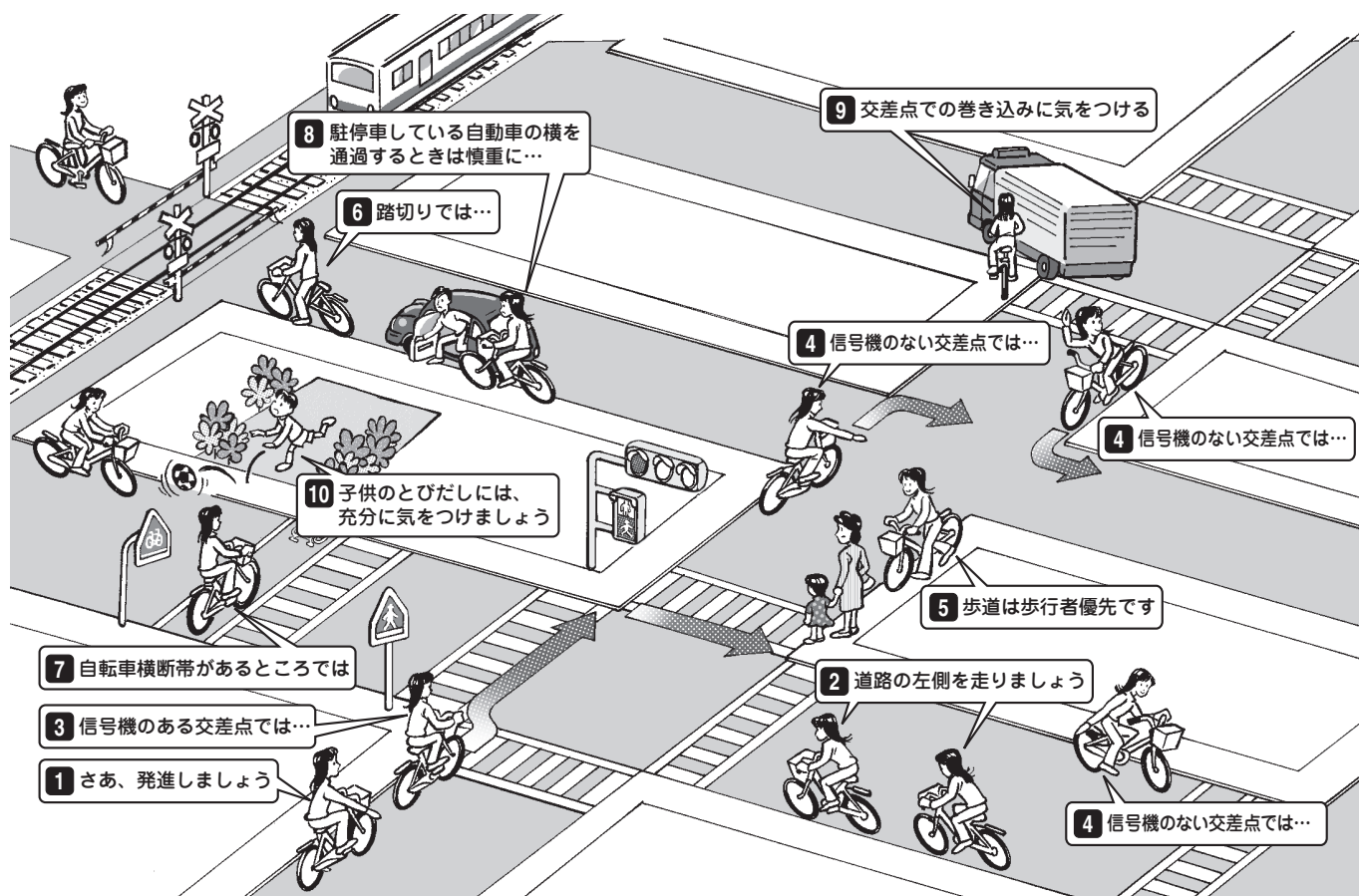
10 子どものとびだしには、充分に 気をつけましょう

近くの公園や学校があるような道路では、とくに子どものとびだしに気をつけましょう。

11 周囲の迷惑にならないように しましょう

他の自転車と並んで走行したり、ジグザグ運転をしてはいけません。

自転車の交通ルールについて



自転車のルールを守って、安全走行

- 止まって確認、らくらく発進
- ライトをつけて、らくらく走行



スピードのだしすぎや急ブレーキはやめましょう

スピードのだしすぎや急ブレーキは転倒や追突のもと。特に下り坂や雨の日、ぬれた路面などはすべりやすいので、ブレーキ操作に気をつけましょう。

また、カーブや交差点などではスピードを充分に落とし、ゆとりあるブレーキ操作で安全運転を心がけましょう。

- ブレーキをかけるときは…
ブレーキは、必ず前後ともにかけます。片側だけのブレーキ操作は転倒や横すべりの原因になります。

- 長い下り坂でのブレーキ操作は…
長い下り坂でブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキシューが加熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。ブレーキは小刻みにかけましょう。



の標識があるところでは…

必ず一旦停車し、周囲の安全を確認してから走りだしましょう。



横断歩道をわたるときは一時停止を忘れずに！

横断歩道の手前で一旦停車し、安全を確認してから進みましょう。



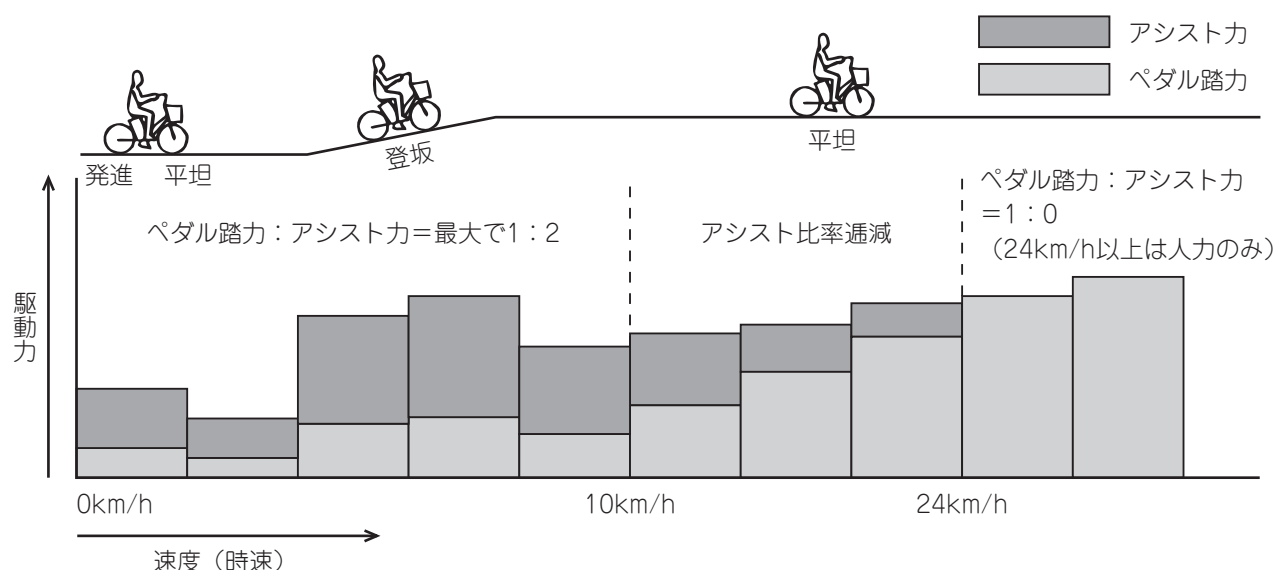
の標識・表示があるところでは…

歩道の中央から車道よりを、または標識や表示に指定されているところを通行することができます。ただし、歩行者の迷惑にならないようにつねに周囲の状況に気を配り、場合によっては一時停止をしましょう。

PAS のしくみ

● ペダル踏力とアシスト力の比率

ここでは、アシストの法令基準について説明しています。PAS のアシスト比を表しているものではありません。



発進から時速 10km に達するまでは、自転車をこぐ力“1”に対して最大で“2”の力でアシストすることができます。

時速 10km を超えると次第にアシスト力を弱めていき、時速 24km でアシストをゼロにします。

PAS はこの基準の範囲内で、ペダルを踏んだ力や走行速度、変速位置などに応じたアシストをします。

● シフトポジションセンサーのはたらき

このPAS は、シフトポジションセンサーを装備しています。シフトポジションセンサーが読み取ったシフト位置と、走行状態（ペダル踏力など）により、最適なアシストをコントロールします。

● PAS の健康増進効果

PAS は普通の自転車よりも坂道などの影響を受け難いため、負荷が軽い運動を長時間持続しやすいという特長があります。

つまり酸素を身体に取り入れながら運動をする、「有酸素運動」の格好な手段です。

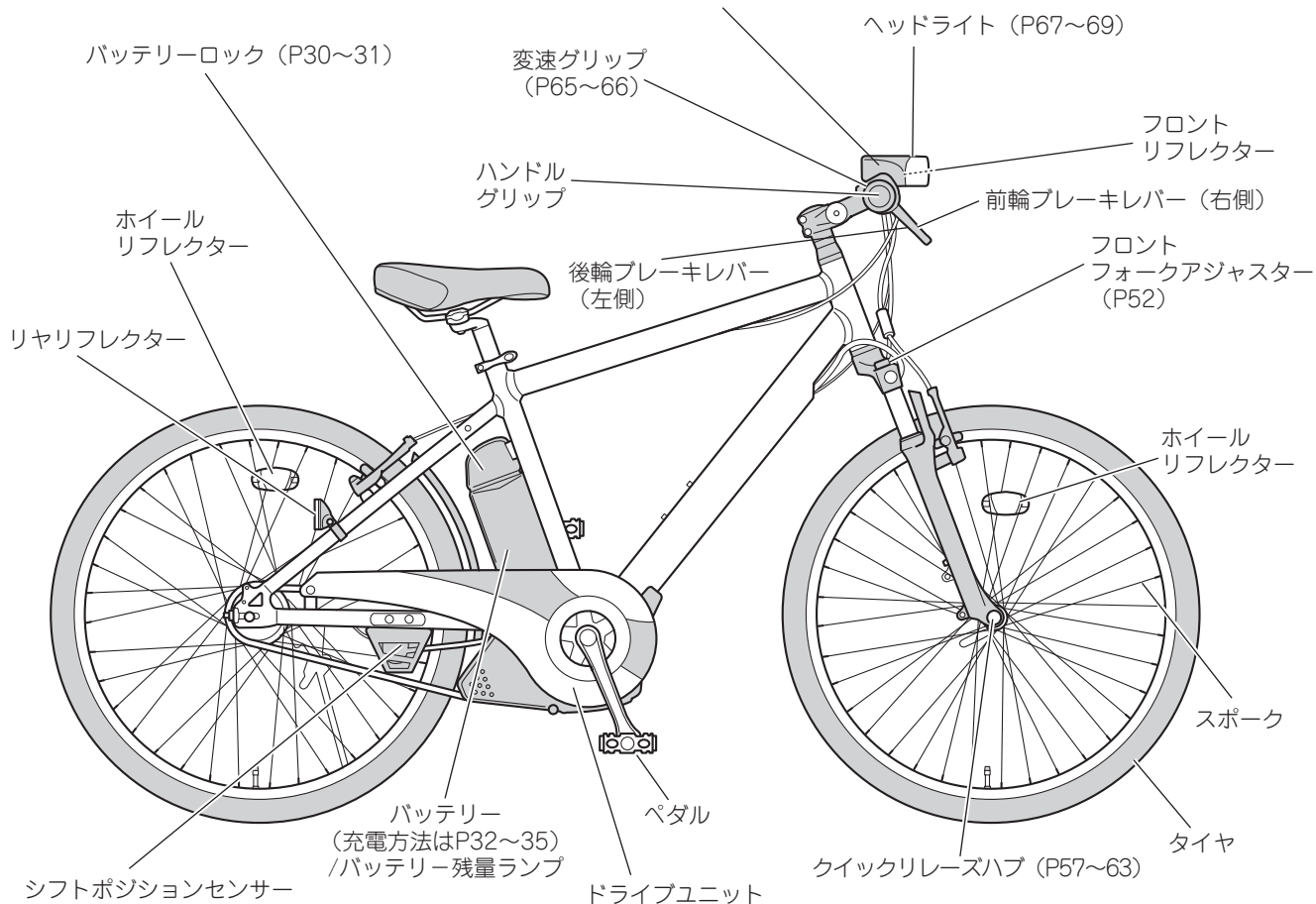
有酸素運動はエネルギー源として、主に脂肪を燃焼・消費するため、ダイエット効果が見込まれます。

PAS は移動をしながら、気軽にかつ持続的に有酸素運動ができ、健康に良いということが言えます。

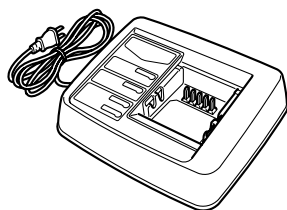
各部の名称

[イラストは PV26S]

メインスイッチ (P41~42) / バッテリー残量ランプ (P40)
オートエコモードプラススイッチ (P43、P45~47) / アシストレベルスイッチ (P41~42、P44)



PAS 専用充電器 (P32)



キーを失くしたときは

裏表紙の[キー番号記入欄]にキー番号を控えておいてください。万一、キーを紛失した場合、番号を控えておくことにより、キーの作製が可能です。

キーの作製については、ご購入店にご相談ください。(有料)



バッテリーの取り扱いについて

警告

異臭や変形など、今までと異なることに気がついたときは使用しない。

継続して使用すると、発熱、破裂、発火のおそれがあります。異常があるときは使用せずに、販売店にご相談ください。

落としたり、衝撃を与えたバッテリーは使用しない。



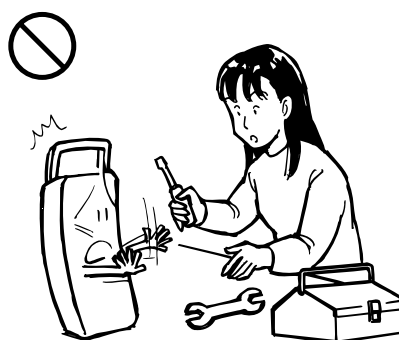
発熱、破裂、発火の原因になります。

バッテリーを火中に投げ入れない。



バッテリーを火中に投げ入れると破裂や激しく燃焼するおそれがあり大変危険です。使用済バッテリーは販売店で必ずリサイクルしましょう。

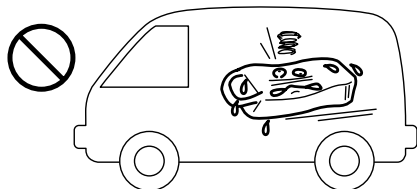
バッテリーの分解や改造をしない。



発熱、破裂、発火の原因になります。

注意

自動車内や暖房器具の近くなどの高温になる場所に放置しない。



高温になる場所に長時間放置すると、バッテリーの容量が低下して走行距離が短くなったり、保護機能が働いてバッテリーが使用できなくなることがあります。

バッテリーの取り扱いについて

注意

バッテリー底部の接点にもものをつめたりショートさせない。



接点部にもものをつめると接触不良により使用できなくなることがあります。また、針金などでショートさせると故障のおそれがあります。

バッテリーにホースなどで水をかけたり、水中に投下しない。



バッテリーに水をかけるとショートし、故障の原因になります。また、水中に投下すると電池機能を失い、使えなくなります。

バッテリーを他の電気製品に使わない。



バッテリーはPAS専用です。他の電気製品に使用すると破損することがあります。PAS以外の用途には絶対に使用しないでください。

バッテリーの特徴

PAS に使われているリチウムイオンバッテリーとは…

このPASに使われているバッテリーは大きな電流が取り出せる大容量・高性能のリチウムイオンバッテリーです。従来のニカドバッテリーやニッケル水素バッテリーに比べると、小型・軽量で、大容量の電気を蓄えることができます。また、従来のバッテリーにあったメモリー効果（継ぎ足し充電を繰り返すとバッテリー残量が見かけ上低下する現象）がありませんので、タイミングを気にすることなくいつでも継ぎ足し充電ができます。

バッテリーの特徴

- バッテリーは暑さ、寒さが苦手です。
バッテリーは化学反応を利用して、充電と放電を行います。この化学反応は、温度に大きく影響される特徴があり、特に日本のように夏は暑く、冬は寒い環境はバッテリーの性能を大きく左右します。
- バッテリーは、使用していなくても自然に放電します。自然に放電した分は、使用される前に充電をすれば回復をします。
- 長時間使用しなかった場合、バッテリー残量ランプの減りが早い場合があります。充電と放電（走行）を数回繰り返すことで、回復することがあります。
- 新品時は性能が十分に発揮されないことがあります。
新品時には走行距離が短いときがありますが、2～3回使用して充電をすることで回復します。（回復しない場合は販売店にご相談ください）

要 点

高性能なリチウムイオンバッテリーでも、充放電を繰り返すと次第に容量が少なくなり、バッテリーの交換が必要になります。（これはバッテリーの特性によるものであり、故障ではありません。）

バッテリーの特徴

夏期／冬期の性能低下

●夏期の症状

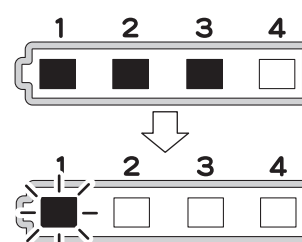
気温が高くなる時期に、長い坂道を登ったり、重い荷物を積載して長時間走行した場合に、バッテリー又はドライブユニットの温度が上がり、システム保護のためアシスト力が低下することがあります。この場合は温度が適正になれば回復します。シフト位置を、通常使用しているシフト位置よりシフトダウンしてご利用いただくと、症状が出にくくなります。（たとえば＜2＞→＜1＞速にする、など）

●冬期の症状

- 約 10℃以下の寒い環境ではバッテリー出力容量が少なくなり、走行距離が 2 ～ 4 割短くなったりアシスト力が低下することがありますが、気温が暖くなる（バッテリーの温度が適温になる）と回復します。したがってバッテリーを暖かい室内で保管しておいて使用するとこの症状を軽くすることができます。

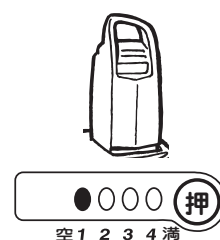
- バッテリー残量ランプの表示の減少が早かったり、4 ～ 2 灯からいきなり 1 灯（遅い）点滅になることがあります。この症状が出た時は満充電にすることで症状を回復することが可能です。また、1 灯（遅い）点滅になった後も、普段と変わらない距離を走行することができます。

3 灯→ 1 灯点滅の例



バッテリーを消耗させる環境

- リチウムイオンバッテリーは従来のバッテリーに比べて自然に放電する量は少ないですが、完全に放電してしまうと消耗を早めることがあります。長期間（1 か月以上）乗らない場合は車両から外し、バッテリー残量ランプ 1 灯～ 2 灯の残量を残して、室内の涼しく（10 ～ 20℃）湿気のない場所で保管をしてください。



- リチウムイオンバッテリーは、高温下にさらされるのが苦手です。バッテリーを炎天下の自動車内や冬場の暖房器具のそばなど、高温下で保管しないでください。



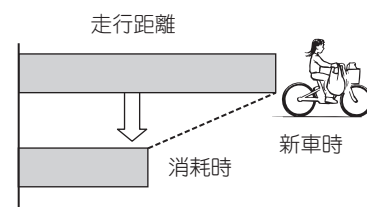
- 満充電になったバッテリーを何回も充電するのは避けてください。

バッテリーの交換について

バッテリーは交換が必要です。(バッテリーの交換は有料です)

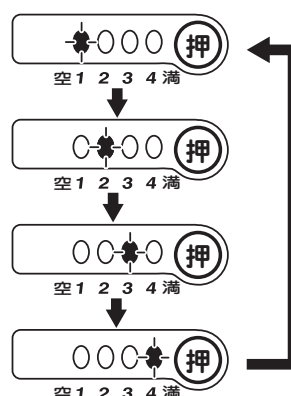
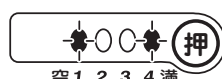
バッテリーの交換時期は使用状況や気温・充電のしかたによって異なりますが、一充電あたりの走行距離が著しく短くなり、回復する兆しがない場合はバッテリーの交換時期です。(冬期は気温や風などの影響で一充電あたりの走行距離が2～4割短くなります。これは気温が高くなれば回復しますので、交換時期になったわけではありません。)

一充電あたりの走行距離が著しく短くなった



●次のような症状が出たら、その後バッテリーは使用できません。

- 重大な異常を検出した場合 (P85)
バッテリーボックスのバッテリー残量ランプの1灯(左端)と4灯(右端)が同時に点滅しているとき。
(内寄りの2灯と3灯は消灯しています。)
- バッテリーの使用期間(5年程度)を経過した場合、または著しく劣化した場合(P85)
バッテリーを充電器に接続したとき、バッテリーボックスのバッテリー残量ランプが1灯(左端)→2灯(左から2番目)→3灯(右から2番目)→4灯(右端)と、順番に点滅しているとき。



要 点

バッテリーが使用できなくなった場合は、できるだけ早めに販売店で交換してください。(有料)

リチウムイオンバッテリーに関するお知らせ

ヤマハ発動機では、社団法人電池工業会および社団法人電子情報技術産業協会が発行した『ノート型PCにおけるリチウムイオン二次電池の安全利用に関する手引書』に準拠させた製品造りを進めております。

バッテリーが著しく劣化した場合などに、バッテリーをご利用できなくなる機能が織り込まれており、**最長でもPV26Sは5年程度で、PV26SLは8年程度で、バッテリーをご利用できなくなります。**

バッテリーの交換について

リチウムイオンバッテリーの交換時期の目安

バッテリー容量は、350～450 サイクル（注1）の充放電で新車時の約半分になります。

<条件>

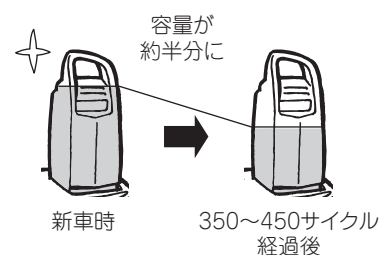
- 一般路走行パターン（旧規定）で使用情况の場合
- 25℃環境で、年間200サイクル（注2）の充放電を行った場合

（注1）

1 サイクル＝バッテリーを使い切ってから、満充電にすること。

（注2）

充放電の繰り返し頻度が著しく多い場合は、容量が半分以下になる期間が短くなります。



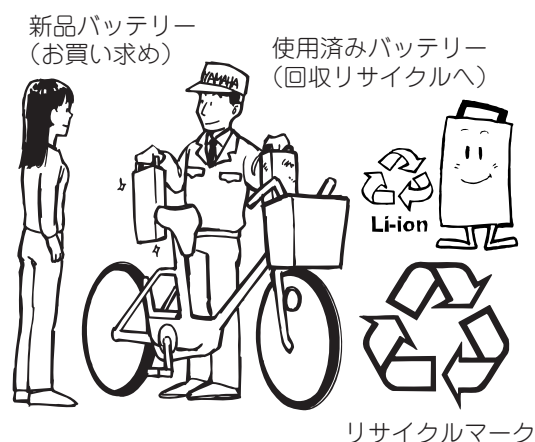
上記の交換時期の目安は保証値ではありません。

- 以下のような条件では、目安よりも交換時期が早くなることがあります。
 - 高温下での長距離走行や保管、走行直後の充電など高温下での充放電時間が長い場合
 - 急坂の登坂や発進停止の繰り返し、重たい荷物の積載、タイヤの空気圧不足など走行負荷が大きい場合
 - 使用頻度が低く、放置期間が長い場合
 - バッテリー残量が極端に少ない状態で長期間放置した場合
- 容量が徐々に低くなるのにしたが、一充電当たりの走行距離も徐々に短くなります。

バッテリーの交換は必ず販売店で行ってください。（有料）

バッテリーのリサイクルにご協力ください。

リチウムイオンバッテリーはリサイクル可能なバッテリーです。交換時期がきて使用済みになったバッテリーは、販売店で回収リサイクルしてもらってください。小さな積み重ねが地球の限られた資源を有効活用します。



バッテリー充電をする前に

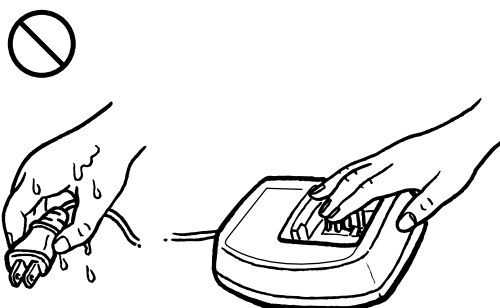
警告

PAS 専用充電器は幼児やペットがいたずらするところには設置しない。



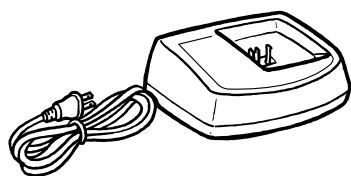
予想外の行動により、危害を受けたり火災になるおそれがあります。

PAS 専用充電器の電源プラグをぬれた手で取り扱ったり、充電器の接点部分に触れたりしない。



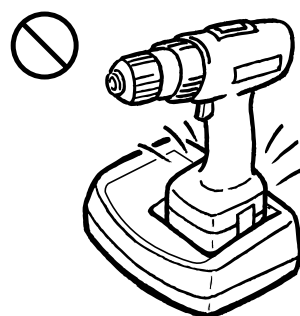
感電するおそれがあり、大変危険です。

必ず PAS 専用充電器を使用する。



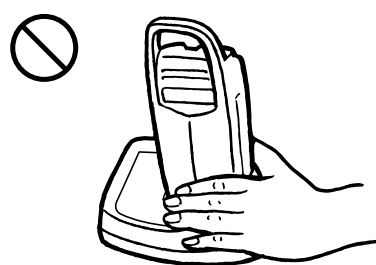
PAS 専用充電器以外でバッテリーを充電しますと、バッテリーの発熱・破裂・発火の原因になります。PAS 専用充電器以外は、絶対に使用しないでください。

PAS 専用充電器は他の電気製品などに使用しない。



PAS 専用充電器は、PAS のバッテリー充電用に開発された専用品です。たとえ接点の形状が一致しても、他の電気製品などには絶対に使用しないでください。火災や破損の原因になります。

充電中の PAS 専用充電器に、長時間、皮膚の同じ場所で触れない。



PAS 専用充電器は充電中に発熱し、40～60℃になる場合があります。充電中の PAS 専用充電器に長時間皮膚の同じ場所で触れていると、低温やけどのおそれがあります。

バッテリー充電をする前に

警告

PAS 専用充電器の電源コードの取り扱い、以下のことを守る。

- 電源コードを束ねたり、丸めたりしたまままで充電しない。
- 電源コードを傷つけたり、加工するなどしない。
- 電源コードを無理に曲げる、ねじる、引っ張るなどしない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、クギなどで固定したりしない。
- 電源コードが損傷（断線や芯線の露出など）している状態で使用しない。

火災・感電の原因となり、大変危険です。異常があるときは使用せずに販売店にご相談ください。

PAS 専用充電器を分解したり、改造をしない。

火災、感電の原因になります。

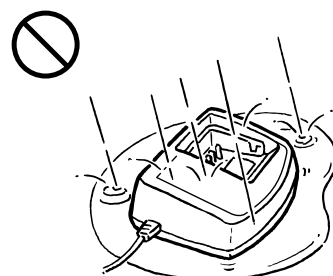
PAS 専用充電器を台の上などに置いて使用しない。

台の上などに置いて使用すると、落下によりケガをするおそれがあります。

PAS 専用充電器を家庭用コンセント（AC 100V）につないだままにしない。

コンセント部分にほこりがたまり、火災になるおそれがあります。
PAS 専用充電器をご使用にならないときは、安全のためコンセントからプラグを抜いておいてください。

PAS 専用充電器を水没させたり、雨中に放置しない。



内部が濡れたまま使用しますと、火災の原因となり大変危険です。また、充電中にバッテリーを破損させることがあります。もし、水が入ったと思われる場合は電源プラグをコンセントから外し、必ず販売店で点検を受けてください。

ガソリンなどの引火物の周辺や引火雰囲気中で充電しない。

火災の原因になります。

バッテリー充電をする前に

注意

PAS 専用充電器は平坦で安定する場所にしっかり設置する。



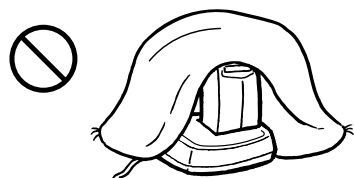
コードが引っぱられたり、落下の衝撃により故障の原因になります。

PAS 専用充電器は落としたり衝撃をあたえない。



充電ができなくなったり破損するおそれがあります。

充電中の PAS 専用充電器にカバーをしたり上に物を置かない。
また、複数の PAS 専用充電器を重ねたり密着させて使用しない。



内部が発熱し、充電できなくなることがあります。

PAS 専用充電器を踏まない。



故障や破損のおそれがあります。

PAS 専用充電器やバッテリーの接点にごみや水が付着しないよう注意する。



充電ができなくなったり破損するおそれがあります。

接点はいつもきれいにしておいてください。

接点に金属をつけない。



故障のおそれがあります。

バッテリー充電をする前に

注意

自動車のAC電源などを使用しない。



充電するときは必ず、家庭用コンセント（AC 100V）をお使いください。

PAS 専用充電器を家庭用コンセント（AC 100V）につないだままにしない。



落雷などによる故障のおそれがあります。PAS 専用充電器をご使用にならないときは、安全のためコンセントからプラグを抜いておいてください。

充電する場所

下記の諸条件を満たす場所を選んで充電しましょう。

- 平坦で安定がよいところ。
- 雨や水にぬれないところ。
- 直射日光の当たらないところ。
- 風通しがよく、湿気の少ないところ。
- 幼児やペットなどがいたずらをしないところ。
- 充電中の室温が約 0 ～ 30℃の範囲内の場所。

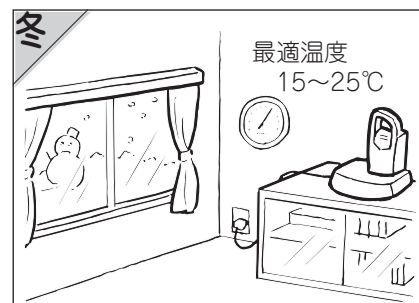
ただし、夏場の暑いときや冬場の寒いときは充電が開始されても、充電中止になりがちです。
できる限り、最適温度の約 15 ～ 25℃の室温で充電しましょう。

充電おすすめ場所の参考例

充電に最適な温度は約 15 ～ 25℃です。室温が約 0 ～ 30℃の範囲内なら充電可能ですが、走行直後のバッテリーは、バッテリー内部温度が規定の充電開始温度の範囲外にある場合があります。この場合、バッテリー内部温度が規定の充電開始温度になるまで、充電待機の状態（バッテリー残量ランプが4灯同時にゆっくり点滅する状態）になります。



- 日陰ですずしく、風通しのよい場所



- 夜間でも 0℃以下にならないあたたかな場所

要 点

室温が 0 ～ 30℃の範囲内であっても、走行直後や夏場に日光が当たる場所にバッテリーを放置していた場合は、バッテリー内部の温度が上昇していて規定の充電開始温度の範囲外にあるために充電できないことがあります。バッテリー内部の温度が充電開始できる温度に下がるまでには、室温 30℃の部屋で約 3 時間かかる場合があります。

充電する場所

充電に適さない場所、充電方法

夏



- 直射日光が当たる場所での充電



- 走行直後の充電

一旦正常に充電を開始しても、充電途中でバッテリーが規定の温度を越えた時はバッテリー保護のために自動的に充電を中止しますので、充電不足になる場合があります。この場合、メインスイッチのバッテリー残量ランプは4灯点灯しないことがあります。しばらくバッテリーを冷ましたあと、できるだけすずしい場所でもう一度充電してください。

冬



- 冬の屋外、または物置などの寒い場所



- ストーブやこたつなどの暖房器具の近くでの充電

充電前には適正温度範囲内であっても深夜の冷え込みなどにより途中で0℃以下になるとバッテリー保護のために自動的に充電を中止し、バッテリー残量ランプが4灯でゆっくり点滅して知らせます。このようなときはあたたかな場所でもう一度充電をしておしてください。

要 点

テレビ、ラジオなどのそばで充電をすると、雑音が入ったりテレビの画面がチラついたりする場合があります。そのような場合は、電化製品から離して（他の部屋などで）充電をしてください。

充電しよう

バッテリーの脱着

バッテリーの取り外しかた

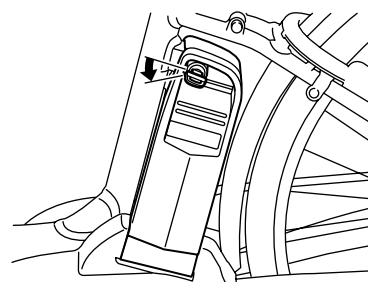
- 1 メインスイッチを「OFF」にします。



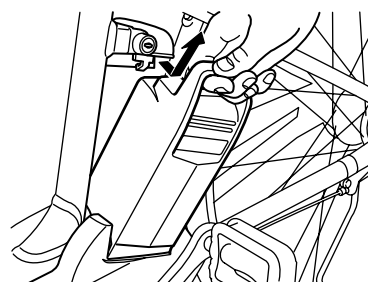
- 2 バッテリーロックにキーを差して、押し込みながら反時計方向に回します。



バッテリーロックが解除されます。



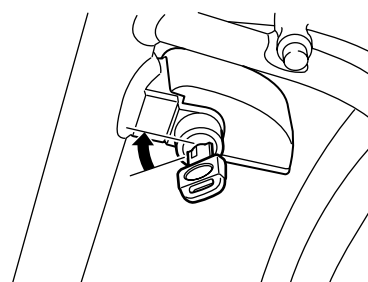
- 3 バッテリーのグリップを持ち、斜めに倒しながら上へ引き出してバッテリーを取り外します。



- 4 バッテリーを取り外した後、キーを押し込みながら時計方向へ回してロックします。

要 点

ロックした後、キーを忘れずに抜き取ってください。



- 5 充電をします。(P32 ~ 35)

バッテリーの脱着

バッテリーの取り付けかた

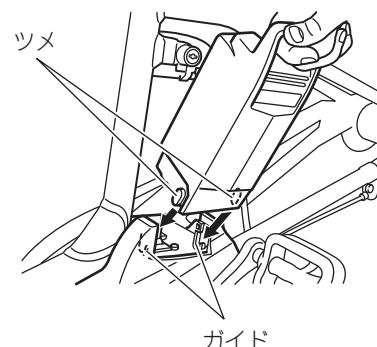
- 1 車両側のガイドにバッテリーのツメを合わせながら、ゆっくりとバッテリーを差し込みます。

警告

バッテリー挿入時、指などをはさまないようにしてください。

注意

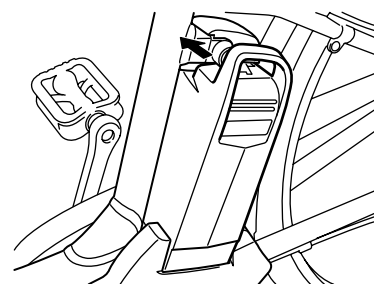
車両側のバッテリー装着部にゴミなどが付着していないことを確認してください。



- 2 バッテリーの上部を押し込みます。
中央まで入るとカチッと音がしてロックされます。

要点

キーをロックに差し込んだままでもバッテリーは取り付けられますが、そのときはバッテリー上部が中央まで入ったら、キーを押しながら時計方向に回してロックし、キーを抜いてください。



充電しましょう

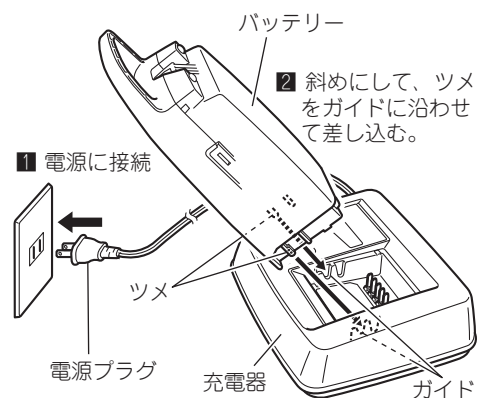
充電のしかた

この PAS のバッテリーは車両から取り外し、専用充電器を使用して充電してください。

充電器のつなぎかた

1 充電器の電源プラグを家庭用のコンセント（100V）に接続します。

2 バッテリーを斜めにして、バッテリーの 2 か所のツメを充電器のガイドに沿わせ、充電器に差し込みます。

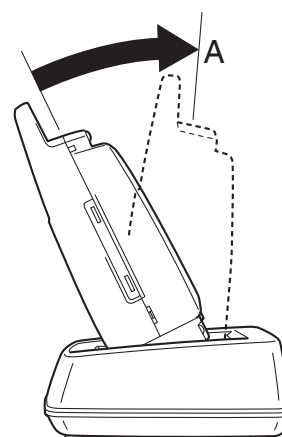


3 バッテリーの上部を A の方向へ押すようにして、確実に接続します。

要 点

バッテリーにガタがないことを確認してください。

充電器を電源に接続し、バッテリーを充電器に差し込むだけで、自動的に充電できます。

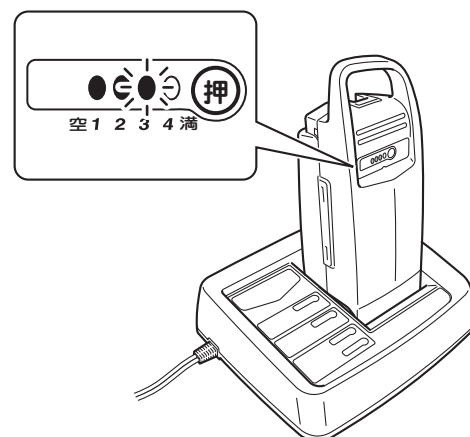


3 バッテリーの上部を A の方向へ押す。

4 P33～34 を参照して、バッテリーボックスのバッテリー残量ランプが充電状態になっていることを確認します。

要 点

バッテリー残量ランプの 1 灯が速く点滅しているときは、充電開始前の準備状態です。そのまま待つと通常充電を開始します。



充電状態の見かた

正しく充電されているとき

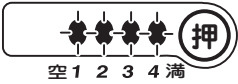
バッテリー残量 ランプの表示	現在の状態	詳細説明
現在の残量が点灯し、一つ上のランプが点滅している。  空 1 2 3 4 満 (残量が2灯分ある場合)	充電中です。	● 充電中は、点灯しているバッテリー残量ランプが1つずつ増えていきます。 ● 4灯ランプが点灯してから充電終了まで、しばらく時間を要します。 ● 充電が終わったら、バッテリー残量ランプが消灯します。 →バッテリーを充電器から取り外し、充電器の電源プラグをコンセントから抜いてください。

要 点

一旦、正常に充電を開始しても、充電途中でバッテリーが規定の温度を超えたときはバッテリー保護のために自動的に充電を中止しますので、充電不足になる場合があります。このとき、メインスイッチのバッテリー残量ランプは4灯点灯しないことがあります。しばらくバッテリーを冷ましたあと、できるだけすずしい場所でもう一度充電してください。

充電状態の見かた

充電待ち / 充電中止になっているとき

バッテリー残量ランプの表示	現在の状態	詳細説明
4 灯同時に点滅する。 	充電待機中です。 ※バッテリー内部温度が規定の充電開始温度にありません。	● 充電できる温度になると、自動的に充電が始まります。 (この場合、バッテリー残量ランプが 4 灯同時に点滅していた時間分だけ充電時間が長くなります) →そのままお待ちください。できる限り、最適温度の約 15 ～ 25℃の室温で充電しましょう。

要 点

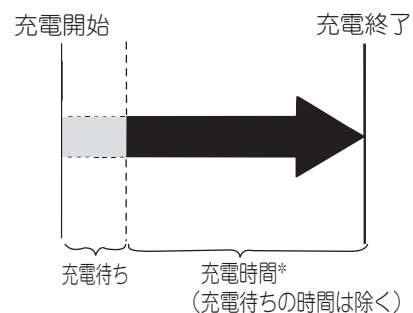
室温が 0 ～ 30℃の範囲内であっても、走行直後や夏場に日光が当たる場所にバッテリーを放置していた場合は、バッテリー内部の温度が上昇していて規定の充電開始温度の範囲外にあるために充電できないことがあります。バッテリー内部の温度が充電開始できる温度に下がるまでには、室温 30℃の部屋で PV26S は約 3 時間、PV26SL は約 5 時間かかる場合があります。

充電時間の目安

充電時間は、充電前の走行状態やバッテリー残量・外気温により異なりますが、バッテリー残量ランプ 1 灯点滅まで乗ると PV26S は約 2 時間、PV26SL は約 4 時間です。

⚠ 警告

充電中異常に気づいたら、ただちに充電器の電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーを充電器から取り外してください。



* 長期放置後の充電時は電池の状態により充電時間が延びますが、バッテリー残量ランプが交互に点滅していなければ故障ではありません。(P84 ~ 86)

乗車前点検

●走行する前に確認する項目 ①～⑬

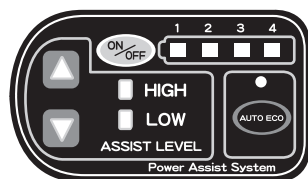
●走行してすぐに確認する項目 ①～④

注意

変形している部品は、ただちに販売店に交換を依頼してください。

要点

メインスイッチを「OFF」にして点検してください。

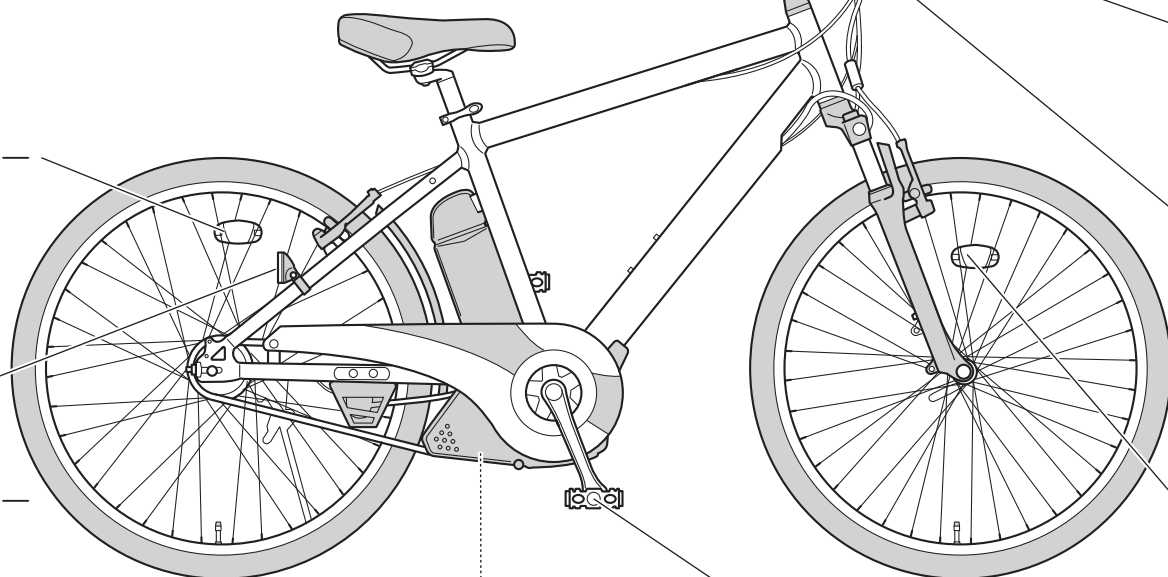


① 変速機の作動

走行中に変速機が作動しないときや、操作性が悪い場合には販売店にご相談ください。

④ ホイール
リフレクター

④ リヤ
リフレクター



[イラストは PV26S]

③ パワーアシストシステムの作動

発進してパワーアシストシステムがしっかり作動するかを確認します。このときパワーアシストシステムからふだんと異なる音がしたり、煙や異臭など異常を感じた場合は、ただちに乗車をやめて販売店にご相談ください。

警告

パワーアシストシステム機構の内部は精密部品で構成されていますので、分解したりしないでください。万一、異常が感じられる場合はすみやかに販売店にご相談ください。

乗車前点検

1 ベルの鳴り具合

ベルが鳴るか、動きが悪くないかを確認します。

2 ハンドルの状態

ハンドルを上下左右／前後方向に動かし、がたつきがないかを確認します。また、ハンドルが前輪と直角になっているかを確認します。

ハンドルの高さは、サドルにまたがってハンドルを握ったときに軽くひじが曲がるくらいが適切です。

② 前照灯の点灯／照射角度

前照灯の光軸中心が10m前方の路面部を照らしているか確認します。

ライトの点灯、消灯は、ライト本体の後ろ側にあるライトスイッチで行います。(P67)

もし点灯しない場合は、P68を参照して電池の交換や電球の点検を行ってください。

4 フロント リフレクター

3 ブレーキレバーの握りしろ

前後のブレーキレバーを握って、レバーとハンドルグリップとの間が約1/2でブレーキがきくかを確認します。

ブレーキレバーの握りしろが大きすぎるときも小さすぎるときも、販売店で点検・調整を受けてください。



4 フロントリフレクター／リヤリフレクター／ホイールリフレクターの汚れと破損

リフレクターに汚れや破損がないかを点検します。汚れは拭き取ります。また、損傷している場合は交換してください。(そのときはヤマハ純正部品を使ってください)

5 ペダルなど、可動部のがたつき

ペダルなど可動部にがたつきがないか、スムーズに回転するかを確認します。がたつきがあるときはボルトなどの増し締めをします。

乗車前点検

●走行する前に確認する項目 ①～⑬

●走行してすぐに確認する項目 ①～④

注意

変形している部品は、ただちに販売店に交換を依頼してください。

要点

メインスイッチを「OFF」にして点検してください。



⑩ サドルの高さ調整用シートピンのゆるみ

シートピンにゆるみがないかを確認します。

⑨ バッテリーの取り付け状態

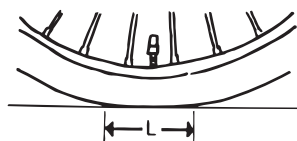
バッテリーが確実に固定されているかを確認します。

⑧ 前後車軸とスポークの状態

前後車軸に、ゆるみやがたつきがないかを確認します。
また、スポークが折れたりゆるんだりしていないかを確認します。

⑦ タイヤの空気圧、摩耗、損傷

タイヤの空気圧が適正であるかを確認します。空気圧は接地面の長さで確認することができます。適正な空気圧でないとパンクや車体各部のがたつきの原因になります。また、摩耗していないか、異物や釘などがささっていないかを確認します。



接地面の長さ(L)：130～140mm

(測定時の参考条件：乗員体重60kg)

適正空気圧	
前輪	450kPa (4.5kgf/cm ²)
後輪	450kPa (4.5kgf/cm ²)

⑥ スタンドの作動状態

スタンドがスムーズに作動し、異常ながたつきがないかを確認します。

乗車前点検

⑩ サドルの状態

サドルの高さは、またがって両足のつま先が地面につくくらいが適切です。
また、サドルにゆるみやがたつきがないかを確認します。

⑫ バッテリーの残量

メインスイッチを「ON」にして残量ランプで目安を確認します。

[イラストは PV26S]

⑬ フロントフォークの作動

フロントフォークがスムーズに作動し、異音などがいないかを確認します。

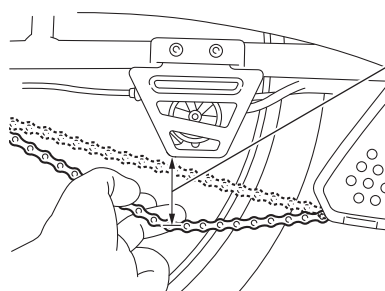
⑧ 前後車軸とスポークの状態

⑦ タイヤの空気圧、摩耗、損傷

④ チェーンの状態

発進時にペダルを踏み込んだとき、“カチン”と大きな音が出る場合は、チェーンの摩耗による伸び、テンショナーの動作不良、スプロケットの摩耗などが生じていることが考えられます。販売店で点検を受けてください。

チェーンの伸びの点検方法



この寸法が45mm以上の場合は、チェーン調整とシフトポジションセンサーの調整が必要です。販売店へ点検調整を依頼してください。

バッテリー残量の確認

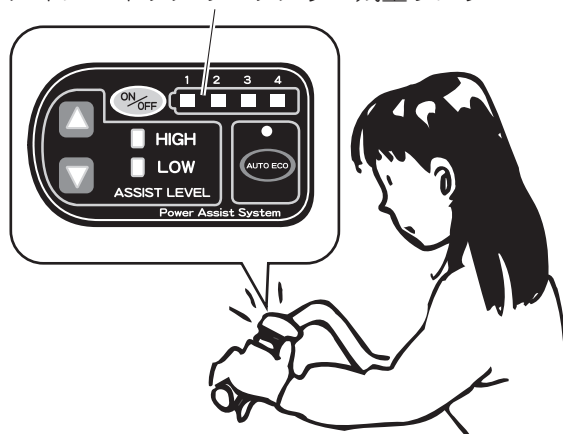
バッテリー残量の見かた

PAS に乗る前には必ず、バッテリーの残量を確かめましょう！

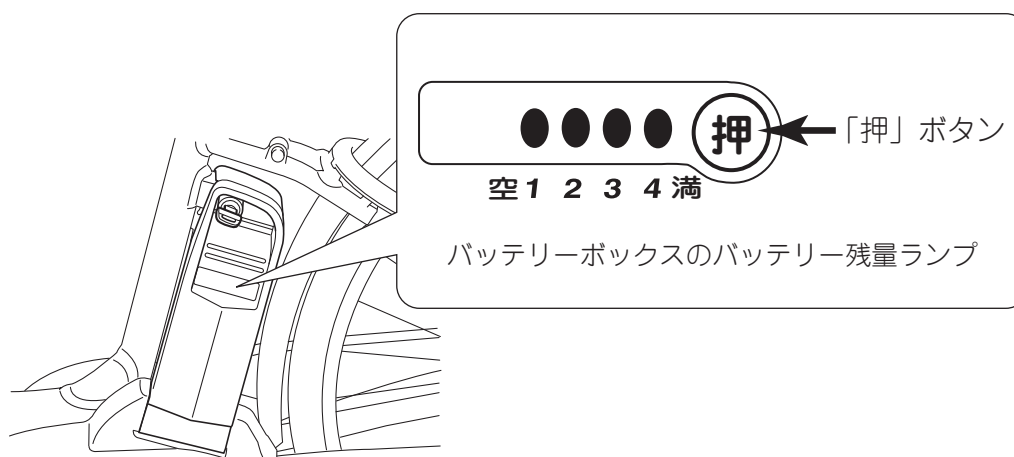
バッテリーの残量は、メインスイッチまたはバッテリーボックスのバッテリー残量ランプで確認することができます。

メインスイッチのバッテリー残量ランプは、スイッチを「ON」にすると表示します。

メインスイッチのバッテリー残量ランプ



バッテリーボックスのバッテリー残量ランプは、ランプの横の「押」ボタンを押すことにより、約 5 秒間残量を表示します。（バッテリーが車載状態でも、車両から取り外した状態でも同じです。）



走行モードの切り替えかた

このPAS は、パワーモード（“HIGH”モード）、標準モード（“LOW”モード）、オートエコモードプラスを装備しています。

パワーモード（“HIGH”モード）は、標準モードに比べて全域でアシスト力を上げた設定になっていますので、よりらくに走行することができますが、そのぶん走行できる距離が短くなります。

標準モード（“LOW”モード）で常時走行するとパワーモードに比べてバッテリー消費が少ないため、走行できる距離が伸びます。

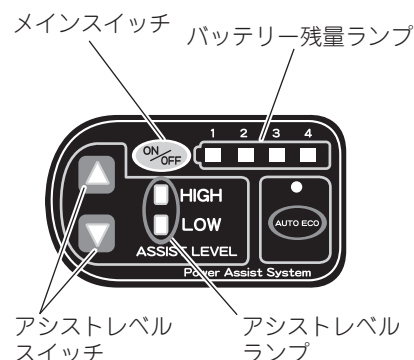
平地を走行するときや、少しでも走行距離を伸ばしたいときは、標準モード（“LOW”モード）で、急な坂道を走行するときや、らくに走りたいときはパワーモード（“HIGH”モード）で走行するなど、上手なモードの切り替えで快適な走行がたのしめます。

オートエコモードプラスを使用すると、PAS が自動的に走行条件（道路、積載状況など）に見合ったアシスト力の調整を行います。（P47）

らくに乗りたとき（坂道などで乗るとき）

- 1 メインスイッチの「ON/OFF」ボタンを押して、電源を「ON」にします。

電源が「ON」になると、バッテリー残量ランプとアシストレベルランプが点灯します。



- 2 アシストレベルスイッチの「△」を押して、アシストレベルを“HIGH”にします。アシストレベルランプの“HIGH”が点灯しているとき、走行モードはパワーモード（“HIGH”モード）です。

- 3 オートエコモードプラスを「OFF」にします。
(オートエコモードプラスの切り替え方法は、P43 参照)

警告

メインスイッチの電源を入れるときは、ペダルに足をかけないでください。

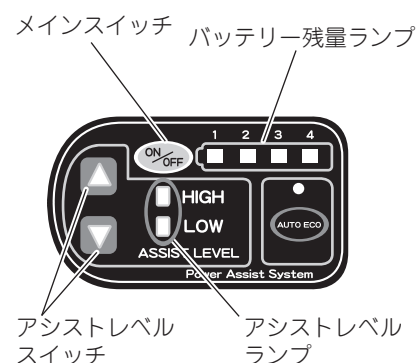
要点

- アシストレベルの切り替えは、走行中、停止中にかかわらずいつでもできます。
- アシストレベルの切り替えとバッテリー残量ランプの機能とは関係ありません。

走行モードの切り替えかた

長い距離を乗りたいとき（バッテリーの充電回数を少なくしたいとき）

- 1 メインスイッチの「ON/OFF」ボタンを押して、電源を「ON」にします。
電源が「ON」になると、バッテリー残量ランプとアシストレベルランプが点灯します。



- 2 アシストレベルランプの“LOW” が点灯していることを確認します。
アシストレベルランプの“LOW” が点灯しているとき、走行モードは標準モード（“LOW”モード）です。
- 3 オートエコモードプラスを「ON」にします。
(オートエコモードプラスの切り替え方法は、P43 参照)

⚠ 警告

メインスイッチを「ON」にするときは、ペダルに足をかけないでください。

要 点

- アシストレベルの切り替えは、走行中、停止中にかかわらずいつでもできます。
- アシストレベルの切り替えとバッテリー残量ランプの機能とは関係ありません。

走行モードの切り替えかた

オートエコモードプラスを ON にするとき

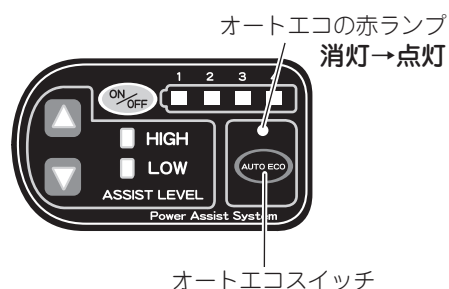
- 1 メインスイッチの「ON/OFF」ボタンを押して、電源を「ON」にします。



- 2 オートエコスイッチ「AUTO ECO」を押します。
オートエコモードプラスが「ON」になると、オートエコの赤ランプが点灯します。

⚠ 警告

オートエコモードプラスの切り替えは必ず、停車中に行ってください。

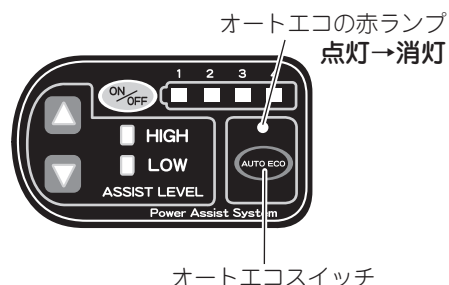


オートエコモードプラスを OFF にするとき

オートエコの赤ランプが点灯している状態で、オートエコスイッチ「AUTO ECO」を押します。
オートエコモードプラスが「OFF」になると、オートエコの赤ランプが消灯します。

⚠ 警告

オートエコモードプラスの切り替えは必ず、停車中に行ってください。



走行モードの使い分けかた

走行モードの上手な選びかた

下表を参考にしながら、体力や走行条件に応じて、走行モードを選んでください。上り坂や積載時はパワーモード（“HIGH”モード）で走行しますと、ペダル踏力を軽減できて、らくに走行できます。

モード	アシストレベルの表示	適用状況				
		発進	平地	上り坂	下り坂	積載時
標準モード （“LOW”モード）	“LOW”	△	○	△	○	△
パワーモード （“HIGH”モード）	“HIGH”	○	○	○	○	○

○：効果的な走行ができる、おすすめ走行モードです。

△：変速グリップのシフト位置をパワーモード（“HIGH”モード）の場合より軽い位置にして走行すれば、ペダル踏力を軽減でき、効果的な走行ができます。

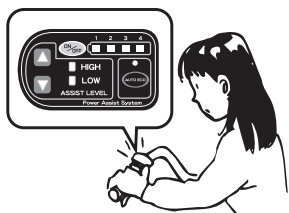
おすすめ走行モードの参考

標準モード

できるだけ長い距離を走りたいとき、平地や下り坂は標準モード（“LOW”モード）。

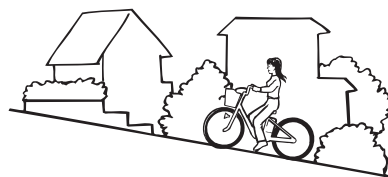


サイクリング気分で運動をかねて乗りたいときは、標準モード（“LOW”モード）。



パワーモード

坂道だってパワーモード（“HIGH”モード）なら大丈夫。



体力の消耗を少なくしてらくに乗りたいときは、パワーモード（“HIGH”モード）。



走行モードの使い分けかた

オートエコモードプラスのはたらき

オートエコモードプラスを「ON」にすると、発進時、急坂の登坂時など、ペダルを強く踏み込んでいる間はアシスト力を“HIGH”の強さにします。

また、緩やかな坂の登坂時、強風時など、やや強めにペダルを踏んでいる間はアシスト力を“LOW”の強さにします。

さらに、平坦路走行時などでペダルを踏む力が弱いときは、アシスト力をカット（“LOW”でオートエコのとき）、もしくは弱く（“HIGH”でオートエコのとき）します。

これらを PAS が自動的にコントロールし、一充電あたりの走行距離を伸ばしています。

長所：平坦路が多い走行パターンでは、一充電あたりの走行距離が大きく伸びます。

要 点

登坂が続くなど、大きな負荷が継続するときは常にアシストをしている状態となりますので、オートエコモードプラスが「ON」になっていても、走行距離はオートエコモードプラスが「OFF」のときと同じくらいになります。

走行モードの使い分けかた

- アシストレベルの“LOW”、“HIGH”、オートエコモードプラスの「ON」、「OFF」の状態は、下の表のような組み合わせで使用することができます。
- ※一充電あたりの走行距離は、標準パターン(P48)と一般走行パターン(P49)で走行したときの平均値です。
- ※一充電あたりの走行距離に関しては、(社)自転車協会の電動アシスト自転車一充電あたり走行距離の表示及び測定に関する規定並びに適用規則に基づき、旧規定と新規定を併記しています。

[PV26S]

一充電あたりの走行距離（標準パターン・新規定）		
アシストレベル オートエコモードプラス	“LOW”	“HIGH”
	23km	18km
「OFF」	23Km	15Km

一充電あたりの走行距離（一般路走行パターン・旧規定）		
アシストレベル オートエコモードプラス	“LOW”	“HIGH”
	58km	39km
「OFF」	37Km	22Km

[PV26SL]

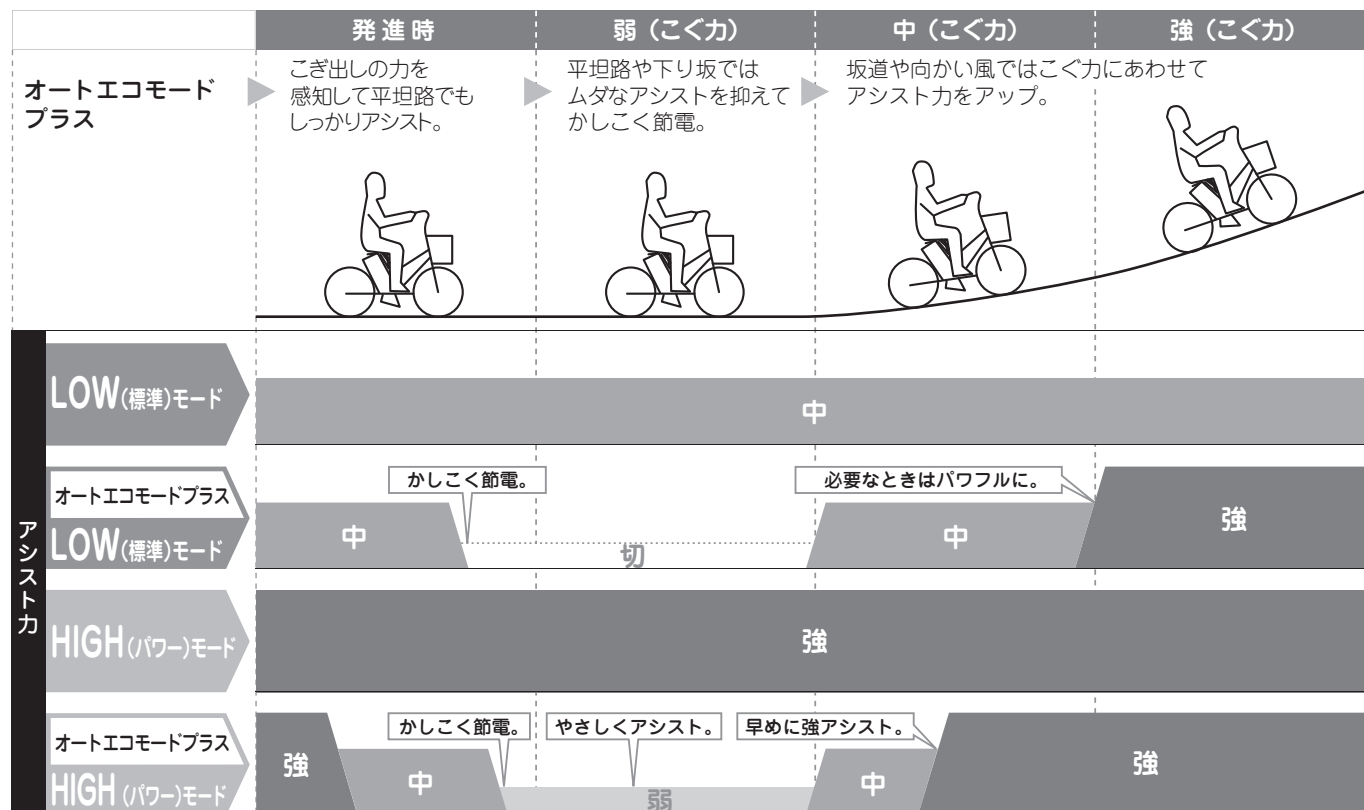
一充電あたりの走行距離（標準パターン・新規定）		
アシストレベル オートエコモードプラス	“LOW”	“HIGH”
	47km	37km
「OFF」	46Km	30Km

一充電あたりの走行距離（一般路走行パターン・旧規定）		
アシストレベル オートエコモードプラス	“LOW”	“HIGH”
	118km	80km
「OFF」	75Km	44Km

走行モードの使い分けかた

● 3 種類の走行モードのアシスト制御イメージ

イラストは、“LOW”、“オートエコモードの LOW”、“HIGH”、“オートエコモードの HIGH” といった 4 種類の走行モードでの、走行状態の違いによるアシスト力の変化を示しています。



オートエコモードプラスの使いかた（応用編）

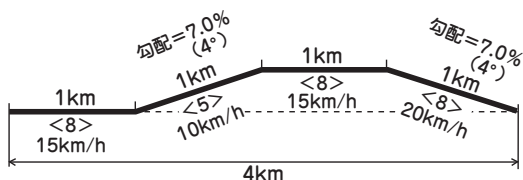
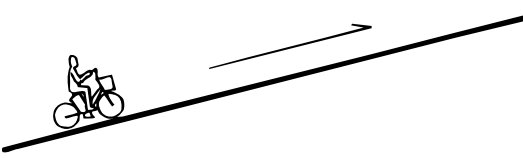
- オートエコモードプラスを「ON」にしているときも、アシストレベルの“LOW”“HIGH”の切り替えは可能です。
平坦路で、より走行距離を伸ばすためにアシストレベル“LOW”＋オートエコモードプラス「ON」で使用しているとき、坂にさしかかって強いアシスト力が必要になった場合は、アシストレベルを“HIGH”にすることで、坂の負荷に応じたアシスト力を得ることができます。
- オートエコモードプラスを使用することにより、節電して一充電あたりの走行距離を伸ばすために、メインスイッチをこまめに「ON」「OFF」する必要はありません。
走行状況に合わせて、アシストレベルの“LOW”または“HIGH”を選択するだけでOKです。
- オートエコモードプラスはペダルをこぎやめたときに、自動的にそのときの設定（「ON」か「OFF」）を保存します。
この設定の保存はメインスイッチを「OFF」にしてもそのまま残っていますので、次に走行するときは、前に走行したときと同じモードになります。

一充電あたりの走行距離

一充電あたりの走行距離（新規定）

標準：15km(PV26S)、30km(PV26SL)

- * 一充電あたりの走行距離とは、バッテリーを満充電にした状態から走り始め、アシストが停止するまでの走行距離です。
- * パワーモード（“HIGH”モード）で、オートエコモードプラスを「OFF」にして走行したときの平均的な数値を示したものです。

走 り か た	走行距離						走 行 条 件
	10km	20km	30km	40km	50km	60km	
標準パターン	PV26S HIGH PV26SL HIGH PV26S LOW PV26SL LOW						標準パターンを連続して走行した場合 [勾配 7.0%（4°）の上り坂を変速ギヤ<5>で、その他を変速ギヤ<8>で走行した場合]
							
4度登坂連続パターン	PV26S HIGH PV26SL HIGH PV26S LOW PV26SL LOW						勾配 7.0%（4°）の坂道を速度 10km/hで、連続して走行した場合 [変速ギヤ<5>]
							

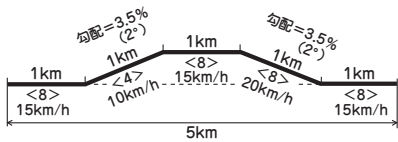
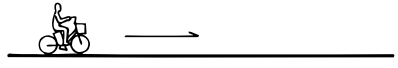
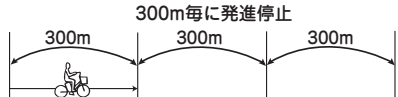
- * バッテリー新品、常温 15 ～ 25℃、車載重量（乗員および荷物を合計した重量）65kg、平滑乾燥路面、無風、無点灯状態で、オートエコモードプラスを「OFF」にして走行したときの弊社データです。
- * 冬期は気温や風の影響で、一充電あたりの走行距離が2 ～ 4 割短くなります。また、約 10℃以下の寒い環境ではバッテリー出力容量が少なくなり、アシスト力が低下することがあります。これらは、気温が高くなれば回復します。
- * 充電回数の増加に従い、一充電あたりの走行距離は短くなります。
- * 充電回数が少なくても、長期間（1 年半～2 年間）の使用により、一充電あたりの走行距離は新車時の半分程度になる場合があります。
- * ペダルを踏み込む際に力が必要な乗りかたほど、バッテリーは早く消耗します。
- * 一充電あたりの走行距離に関しては、（社）自転車協会の電動アシスト自転車一充電あたり走行距離の表示及び測定に関する規定並びに適用規則に基づき、旧規定と新規定を併記しています。

一充電あたりの走行距離

一充電あたりの走行距離（旧規定）

一般路走行：22km(PV26S)、44km(PV26SL)

- * 一充電あたりの走行距離とは、バッテリーを満充電にした状態から走り始め、アシストが停止するまでの走行距離です。
- * パワーモード（“HIGH”モード）で、オートエコモードプラスを「OFF」にして走行したときの平均的な数値を示したものです。

走 り か た	走行距離						走 行 条 件
	20km	40km	60km	80km	100km	120km	
一般路走行パターン 	☐ PV26S HIGH						一般路走行パターンを連続して走行した場合 [勾配 3.5% (2°) の上り坂を変速ギヤ< 4 >で、その他を変速ギヤ< 8 >で走行した場合]
	☐ PV26SL HIGH						
	☒ PV26S LOW						
	☒ PV26SL LOW						
平坦路 	☐ PV26S HIGH						平坦路を速度 15km/h、発進停止無しで連続して走行した場合 [変速ギヤ< 8 >]
	☐ PV26SL HIGH						
	☒ PV26S LOW						
	☒ PV26SL LOW						
平坦路発進・停止 	☐ PV26S HIGH						平坦路を速度 15km/h で、300m 毎に発進・停止した場合 [変速ギヤ< 8 >]
	☐ PV26SL HIGH						
	☒ PV26S LOW						
	☒ PV26SL LOW						
ゆるやかな上り坂 	☐ PV26S HIGH						勾配 3.5% (2°) の坂道を速度 10km/h で、連続して走行した場合 [変速ギヤ< 4 >]
	☐ PV26SL HIGH						
	☒ PV26S LOW						
	☒ PV26SL LOW						
やや急な上り坂 	☐ PV26S HIGH						勾配 7.0% (4°) の坂道を速度 7km/h で、連続して走行した場合 [変速ギヤ< 2 >]
	☐ PV26SL HIGH						
	☒ PV26S LOW						
	☒ PV26SL LOW						

一充電あたりの走行距離

- * バッテリー新品、常温 25℃、車載重量（乗員および荷物を合計した重量）60kg、平滑乾燥路面、無風状態で、オートエコモードプラスを「OFF」にして走行したときの弊社データです。
- * 冬期は気温や風の影響で、一充電あたりの走行距離が2～4割短くなります。また、約10℃以下の寒い環境ではバッテリー出力容量が少なくなり、アシスト力が低下することがあります。これらは、気温が高くなれば回復します。
- * 充電回数の増加に従い、一充電あたりの走行距離は短くなります。
- * 充電回数が少なくても、長期間（1年半～2年間）の使用により、一充電あたりの走行距離は新車時の半分程度になる場合があります。
- * ペダルを踏み込む際に力が必要な乗りかたほど、バッテリーは早く消耗します。
- * 一充電あたりの走行距離に関しては、（社）自転車協会の電動アシスト自転車一充電あたり走行距離の表示及び測定に関する規定並びに適用規則に基づき、旧規定と新規定を併記しています。

一充電あたりの走行距離

走行距離に影響を与える環境

* 下記の状況で走行した場合は、一充電あたりの走行距離が短くなります。



発進・停止の回数が多い



積載重量が重い



急な坂道が多い



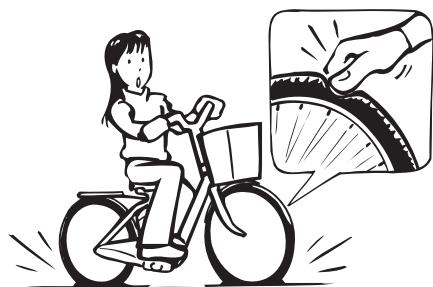
路面の状態が悪い



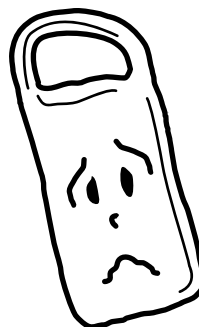
向かい風が強い



気温が低い



タイヤの空気圧が低下している



バッテリーの性能が低下している

フロントサスペンションフォークの調整

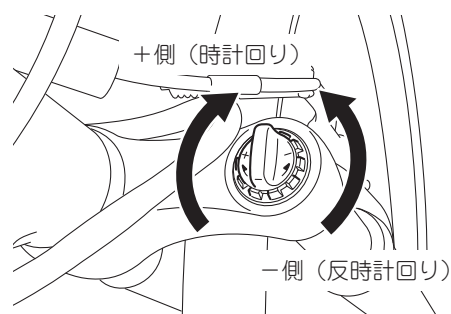
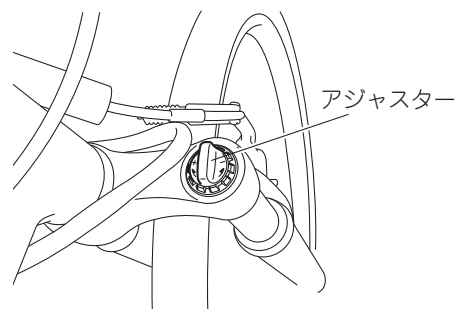
⚠ 警告

フロントサスペンションフォークの調整は、安全な場所で、車両を停車させて行ってください。

フロントサスペンションフォークの作動固さ調整のしかた

フロントサスペンションフォーク右側の上部にあるアジャスターを回して調整します。

+側（時計回り）に回すと沈み量が少なく（作動が固く）なります。平坦な路面を走行するときに適しています。
-側（反時計回り）に回すと沈み量が多く（作動が柔らかく）なります。段差が多い路面を走行するときに適しています。



ハンドルポジションの調整

このPASは、ハンドルブラケットの取り付け位置や角度を変えることで、ハンドルポジションを好みの位置に調整する機構を装備しています。

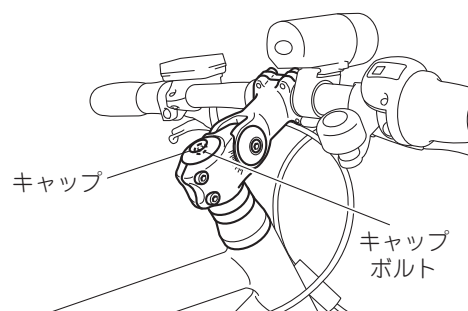
⚠ 警告

ハンドルポジションの調整について、ご自身での調整作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。

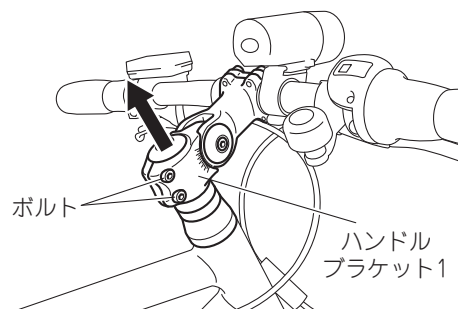
ハンドル取り付け高さ調整のしかた

ハンドル取り付け高さは、上／中／下の3段階に調整ができます。

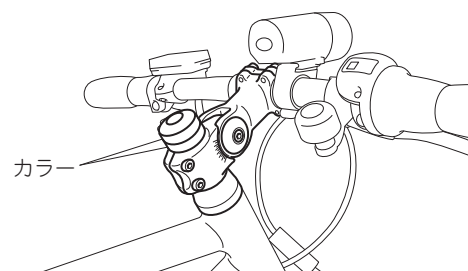
- 1 キャップを外し、キャップボルトを取り外します。



- 2 ハンドルブラケット1の締め付けボルト2本をゆるめ、ハンドルを付けたまま、ハンドルブラケット1をハンドルポストから取り外します。



- 3 カラーを1個または2個取り外し、ハンドルブラケット1をハンドルポストに差し込んだ後で、取り外したカラーを組み付けます。



乗る前に

ハンドルポジションの調整

- 4 キャップボルトを締め付けて、キャップを組み付けます。

キャップボルト
締め付けトルク：2.5 Nm (0.25 kgf·m)

- 5 ハンドルと前輪の角度が直角になるように位置決めをして、ハンドルブラケット 1 の締め付けボルトを締め付けます。

ハンドルブラケット 1 締め付けボルト
締め付けトルク：5 ～ 8 Nm (0.5 ～ 0.8 kgf·m)

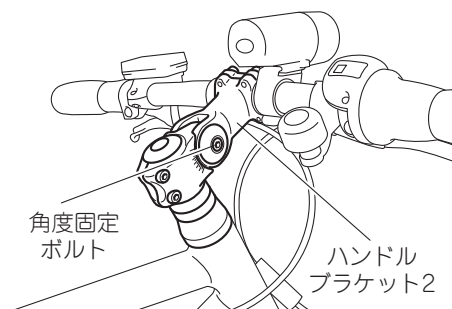
ハンドル取り付け角度調整のしかた

ハンドル取り付け角度は、標準位置を 0°として、下側へ 20°、上側へ 40°まで、10°間隔で調整ができます。

警告

- ハンドル取り付け角度の調整は、乗車および走行中に行わないでください。転倒して、けがをするおそれがあります。
- 乗車前に、必ず組立状態を点検してください。がたや異常があるときは使用を中止し、すぐに販売店にご相談ください。

- 1 ハンドルブラケット 2 の角度固定ボルトを、ボルトの頭が出るくらいまでゆるめます。

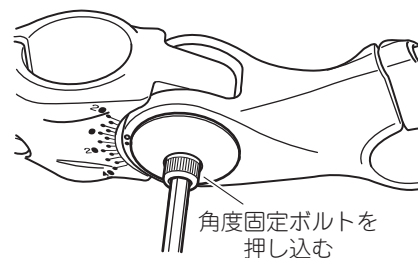


ハンドルポジションの調整

- 2 ボルトをゆるめた六角レンチを使用して、角度固定ボルトを押し込みます。

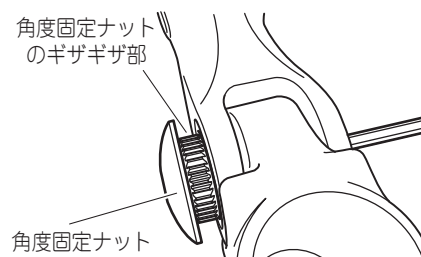
要 点

角度固定ボルトが押し込めないときは、プラスチックハンマーなどの傷がつかないもので軽くたたいて、押し込みます。

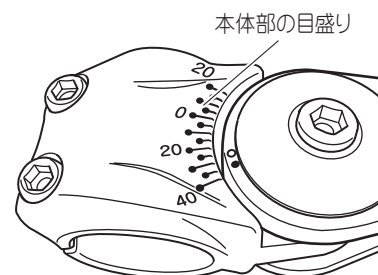


- 3 角度固定ナットのギザギザ部がイラストのように見えて、角度固定ナットが回転することを確認します。

回転しない場合は角度固定ボルトをもう少し緩めて押し込み、再度、角度固定ナットが回転することを確認します。



- 4 目盛りの範囲内で、ハンドルの角度を調整します。

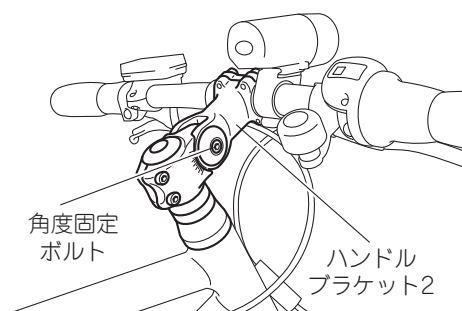


- 5 ハンドルの角度を決めたら、角度固定ナットのギザギザ部がハンドルブラケット 2 のギザギザ部にきちんとかみ合っていることを確認しながら、角度固定ナットを押し込みます。

ハンドルポジションの調整

- 6 角度固定ボルトを締め付けます。

角度固定ボルト
締め付けトルク：5 ～ 8 Nm (0.5 ～ 0.8 kgf・m)



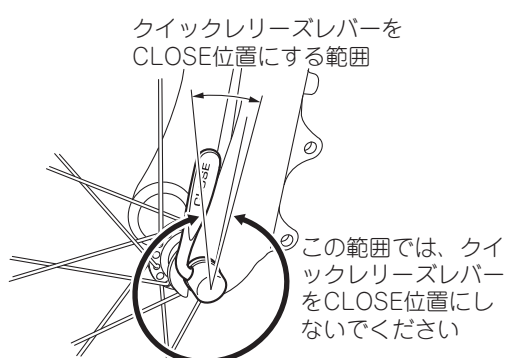
- 7 角度固定ボルトを締め付け後、ハンドルにガタツキなどの異常がないか、確実に固定されているかを確認します。

- 8 必要に応じて、左右のブレーキレバー、シフトグリップ、メインスイッチ、ヘッドライト、ベルの取り付け角度を調整します。

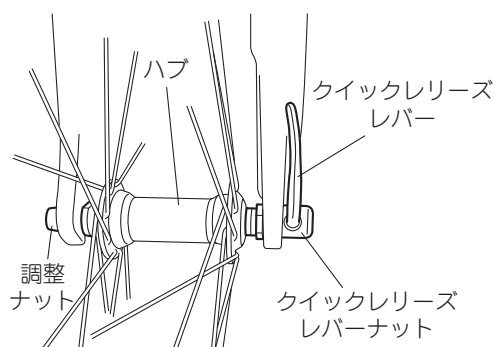
前輪クイックリリースハブの使いかた

⚠ 警告

- この PAS の前輪には、取り付けと取り外しができるクイックリリースハブを装備しています。クイックリリースハブを正しく取り付けないと、走行中に前輪が外れ、ケガをするおそれがあります。
- クイックリリースハブの取り扱い前に、以下のクイックリリースハブについての説明をよくお読みください。不明な点があれば、販売店に問い合わせてください。
- クイックリリースレバーはイラストのように、フロントフォークの左側にセットしてください。また、フロントフォークとクイックリリースレバーとの干渉に注意してください。この干渉によって車輪の固定が不十分な場合、走行中に前輪が外れ、ケガをするおそれがあります。



クイックリリースハブの各部の名称



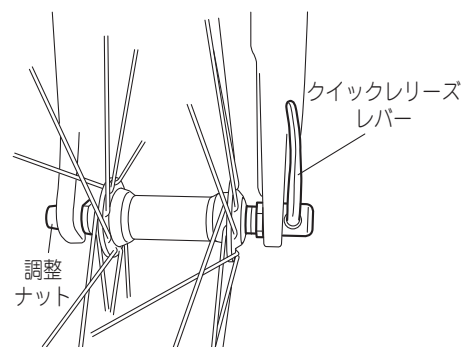
前輪クイックリリースハブの使いかた

クイックリリースハブとは

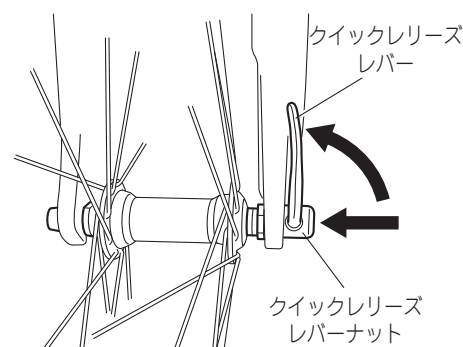
注意

クイックリリースレバーの操作は、必ず手で行ってください。ハンマーなどで操作すると、クイックリリースレバーが破損するおそれがあります。

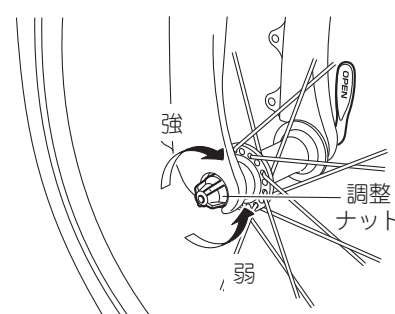
- クイックリリースとは、ハブにあるクイックリリースレバーと調整ナットの簡単な操作一つで、車輪の固定・解除が簡単に行える機構です。



- クイックリリースレバーを CLOSE 側へ倒すと、クイックリリースレバーナットが内側へ動きます。この力でフロントフォークをはさみつけて、車輪を正しい位置に固定します。



- 固定力は、調整ナットを回して調整します。時計方向に回すと固定力が強くなり、反時計方向に回すと弱くなります。

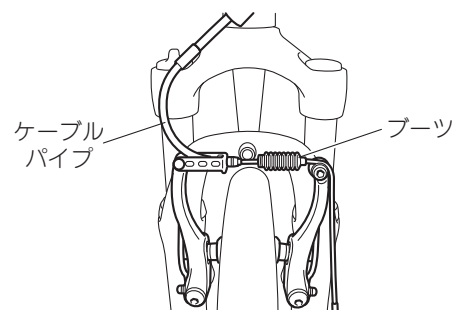


前輪クイックリリースハブの使いかた

車輪の取り外しかた

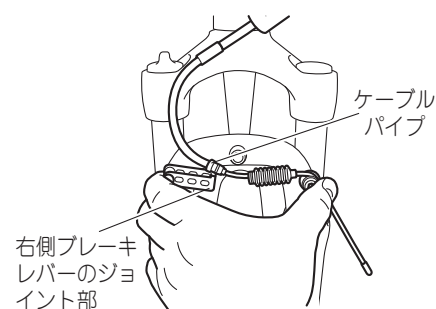
[PV26S]

- 1 Vブレーキケーブルのブーツをケーブルパイプから外し、ブレーキレバーを左右から押さえます。



[PV26S]

- 2 右側ブレーキレバーのジョイント部からケーブルパイプを外し、Vブレーキケーブルをフリーにします。これで、左右のブレーキレバーが外側へ開きます。

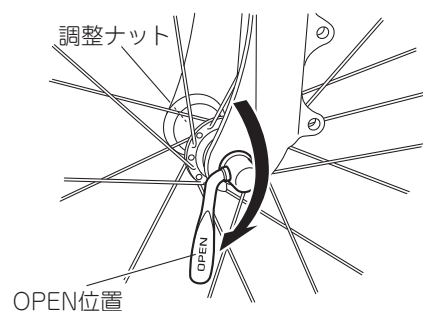


[PV26S、PV26SL]

- 3 クイックリリースレバーを CLOSE 位置から OPEN 位置にし、調整ナットをいっぱいまでゆるめます。

要 点

調整ナットをゆるめすぎると、内側のスプリングと共に脱落することがあります。



[PV26S、PV26SL]

- 4 車体が倒れたりしないよう注意して、車輪を取り外します。

乗る前に

前輪クイックリリースハブの使いかた

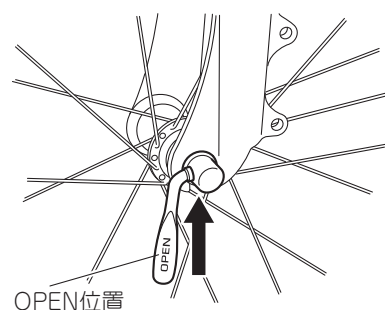
車輪の組み付けかた

[PV26S、PV26SL]

- 1 クイックリリースレバーを OPEN 位置にして、ハブ（車輪）がフォークエンドの奥に当たるまで確実に組み付けます。

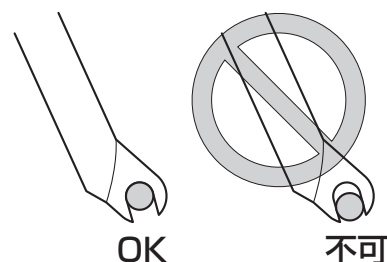
要 点

クイックリリース左右のフォークエンドが入るすき間が少なく、ハブがフォークエンドにスムーズに入らないときは、調整ナットを少し緩めてから組み付けます。



⚠ 警告

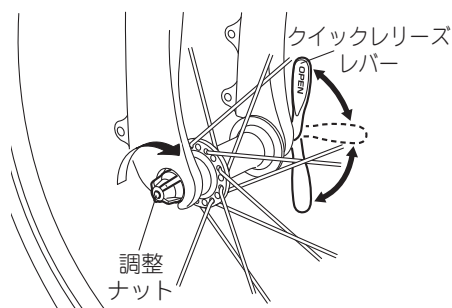
イラストの「OK」のように、ハブ軸がフォークエンドの奥に当たるまで確実に組み付けてください。イラストの「不可」のようにハブ軸がフォークエンドの奥まで入っていないと、前輪が外れるおそれがあります。



[PV26S、PV26SL]

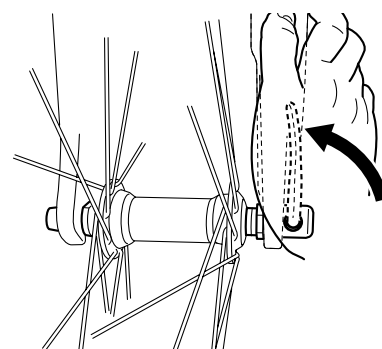
- 2 クイックリリースレバーを右手で交互に OPEN 位置と CLOSE 位置にしながら、OPEN 位置にしているとき、反対側にある調整ナットを左手で時計回りに回して徐々に締め込みます。

クイックリリースレバーを CLOSE 側に動かすとき、レバーがハブ軸と平行の位置（図の破線の位置）を過ぎるあたりからレバーを動かす手に抵抗を感じるようになるまで、徐々にナットを締め続けます。



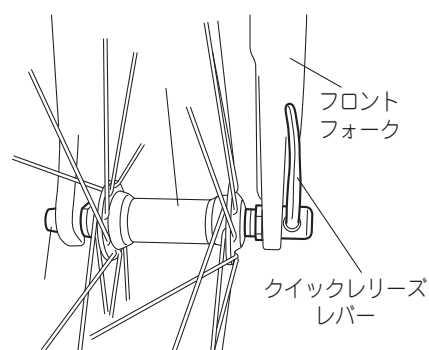
[PV26S、PV26SL]

- 3 指をフロントフォークに掛け、手のひらを使ってクイックリリースレバーを力いっぱい CLOSE 位置まで倒します。



前輪クイックリリースハブの使いかた

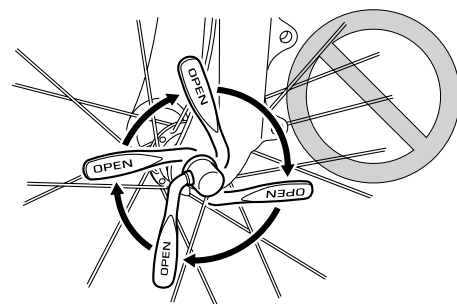
クイックリリースレバーが正しく CLOSE 位置にセットされたときは、レバーの CLOSE と書いてある側が車輪の反対側にあり、イラストのように、レバーがフロントフォークと平行になります。



警告

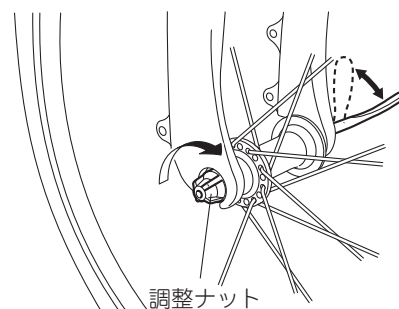
イラストのようにクイックリリースレバーを回転させて、ハブをフロントフォークに固定しようとししないでください。

クイックリリースレバーを回転させただけでは、ハブをフロントフォークに固定することはできません。ハブの取り付けが適切でないために車輪が外れると、ケガをするおそれがあります。



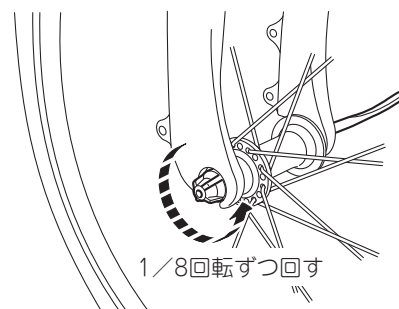
要点

クイックリリースレバーを簡単に CLOSE 位置まで倒せる場合は、固定力が不足しています。クイックリリースレバーをハブ軸と平行の位置にし、調整ナットをさらに時計方向に回して固定力を上げてください。その後、再度クイックリリースレバーを CLOSE 位置へ倒してください。



要点

固定力が強すぎてクイックリリースレバーを CLOSE 位置に倒すことができない場合は、調整ナットを反時計方向に回して固定力を弱めます。このとき、一度に弱めるのではなく、調整ナットを反時計方向に約 1 / 8 回転回すごとにクイックリリースレバーを CLOSE 方向に倒してみ、クイックリリースレバーを倒すことができる最大の固定力にセットしてください。



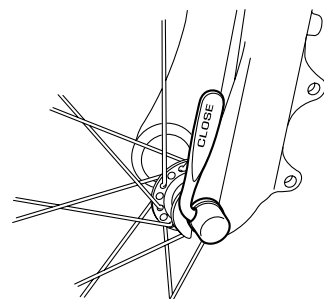
乗る前に

前輪クイックリリースハブの使いかた

クイックリリースレバーを CLOSE 位置にセットした
ときのレバーの方向

⚠ 警告

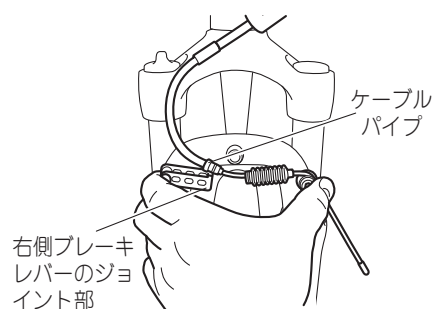
安全のため、CLOSE 位置にしたクイックリリースレバーを横から見たとき、イラストのように、レバーの方向がフロントフォークに沿うようにしてください。



[PV26S]

4

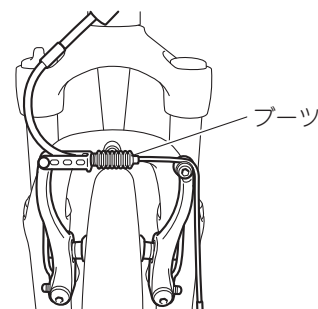
片手で左右のブレーキレバー上部を握り、ケーブルパイプを右側ブレーキレバーのジョイント部に組み付けます。



[PV26S]

5

V ブレーキケーブルのブーツをケーブルパイプに組み付けます。



[PV26S]

6

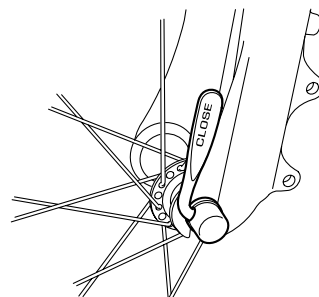
ブレーキが正常に作動するかを確認します。ブレーキの作動に異常がある場合は、販売店にご相談ください。

前輪クイックリリースハブの使いかた

乗る前のチェックポイント

⚠ 警告

- 乗る前には必ずクイックリリースハブを点検し、車輪がフロントフォークに正しく取り付けられているか確認してください。公共の場所に自転車を止めた後は、特に注意してください。
- クイックリリースレバーがCLOSE位置までしっかり押されているか確認してください。
(レバーのCLOSEと書いてある側が車輪の反対側にきます。)

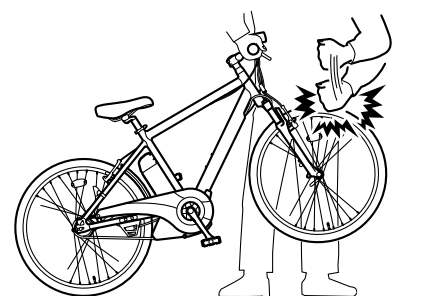


クイックチェック

- 1 車輪が地面を離れるように自転車を持ち上げます。
- 2 イラストのように、タイヤの上部を数回下に強くたたいてください。車輪がゆるんだり、はずれたりしてはいけません。

要 点

- このチェック方法は、クイックリリースレバーが十分に締め付けられているか確認するものではありません。クイックリリースレバーが正しく締まっているか、締め付けが確実でない場合は、この取扱説明書の「クイックリリースハブの締め方」の項をよくお読みのうえ、正しく固定し直してから乗車してください。
- クイックリリースの調整、取り付けに自信のない方は、自転車専門店にご相談ください。



発進のしかた

●PAS に乗る前は必ず乗車前点検を励行しましょう。
(乗車前点検の点検項目は P36 ～ 39 をご参照ください。)

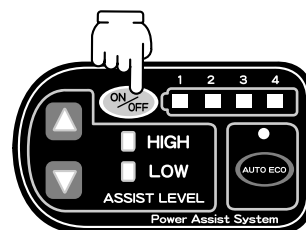
⚠ 警告

バッテリーロックにキーを差したまま走行しないでください。足が当たってケガをするおそれがあります。

- 1 ペダルに足をかけないでメインスイッチを「ON」にします。

要 点

- メインスイッチを「ON」にしてすぐに（約2秒以内）走行を開始すると、アシストが弱くなる場合があります。また、走行中にメインスイッチを「OFF」から「ON」にしたときも同様に、アシストが弱くなる場合があります。（いずれも故障ではありません。）ペダルから足を離した状態で、メインスイッチを「ON」にし、少し待ってから（約2秒後）走行を開始してください。
- メインスイッチを「ON」にしたときは、常にアシストレベルは“LOW”になります。



- 2 バッテリー残量ランプの点灯を確認します。(P40)

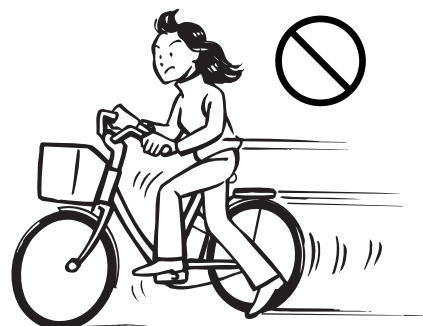
- 3 スタンドを上げ、サドルにまたがり、ペダルをゆっくり踏み込みます。

スタンドを上げてからサドルにまたがり、ペダルに片足を乗せ発進の準備をします。走り出す前に前後左右の安全を確認め、発進の合図をしてからペダルをゆっくり踏み込みます。パワーアシストシステムは踏み込んだ瞬間から作動します。走行中パワーアシストシステム作動時はモーターが回転しているため、モーター音がします。



⚠ 警告

- けんけん乗り（片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた）はしないでください。転倒や接触によるけがのおそれがあります。
- 空き地や公園など安全な場所でよく練習し、パワーアシストの特徴に充分に慣れてから一般道路でお乗りください。また、慣れるまでは“LOW”でスタートしましょう。



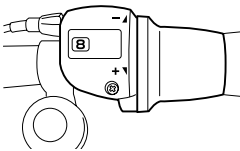
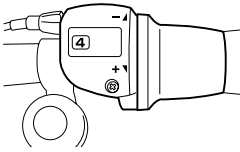
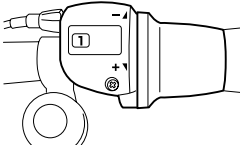
要 点

パワーアシストシステム作動中に後進すると、重たい場合があります。一旦、ペダルから足を離して数秒間待ってください。通常に後進できます。

変速のしかた

道路状況に合わせて早めに変速し、適切なシフト位置で走行しましょう。

適切なシフト位置

道路状況	シフト位置		走行状態
平坦路から、ゆるやかな上り坂。 0～3.5%（0～2°）の勾配	<6～8>		ペダルがやや重くなり、 スピードがでます。
ゆるやかな上り坂から、 やや急な上り坂。 3.5～7.0%（2～4°）の勾配	<4,5>		通常走行時
やや急な上り坂から、 急な上り坂まで。 7.0～10.5%（4～6°）の勾配	<1～3>		ペダルが軽くなり、上り 坂走行に適しています。

要 点

通常使用しているシフト位置よりシフトダウンしてご利用いただくと、スピードは遅くなりますが、バッテリーの消費を節約して、走行距離を伸ばすことができます。

変速のしかた

変速グリップの使いかた

⚠ 警告

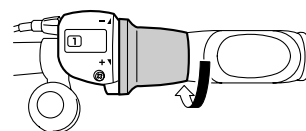
交通が激しくない場所など安全な状況で操作してください。
変速グリップの操作は走行中に行いますので、シフト操作に気をとられ前方不注意になるおそれがあります。

1 走行中にペダルをこぐ足を止めます。

2 変速グリップを以下のように使用して、シフト位置を切り替えます。

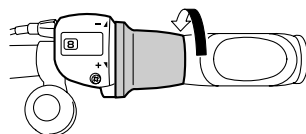
- 変速グリップを手前に回すとシフトアップします。

< 1 > → < 2 > → < 7 > → < 8 >



- 変速グリップを手前から前方（進行方向）へ回すとシフトダウンします。

< 8 > → < 7 > → < 2 > → < 1 >



要 点

ペダルをこいでいるときは変速グリップを操作しても変速できないことがあります。
無理に変速操作を行うと、異音がしたり変速装置が故障する可能性があります。上り坂を走行する際は、坂の手前で変速するようにしましょう。
充分練習し、変速操作になれておきましょう。

ヘッドライトの取り扱い

点灯・消灯のしかた

ヘッドライトの後方にあるボタンを押して、ヘッドライトの点灯・消灯を行います。

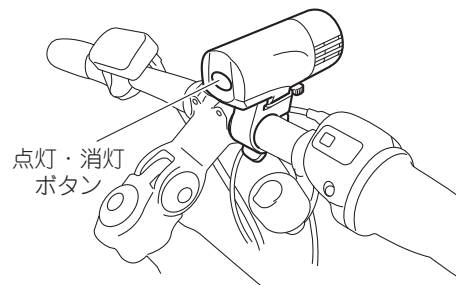
警告

ボタンの操作は、車両を停止して行ってください。

ボタンを1回押すごとに、「消灯」→「明るく点灯」→「暗めに点灯」→「消灯」という順で切り替わります。

要点

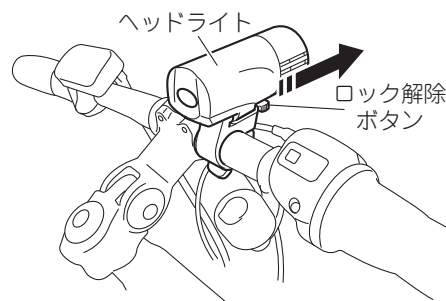
自動的には消灯しません。



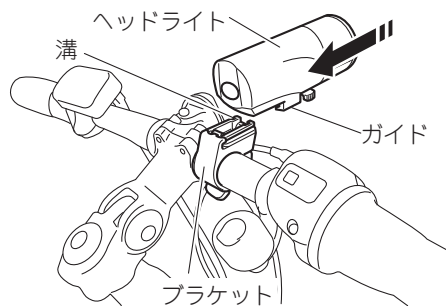
ヘッドライト本体の脱着のしかた

駐輪するときなど、盗難抑止のためにヘッドライト本体を取り外すことができます。

- ヘッドライト右側の下部にあるロック解除ボタンを押しながら、ヘッドライト本体を前方向へスライドさせて取り外します。



- 取り付けは、ブラケットの溝にヘッドライトのガイドを合わせ、前側からヘッドライトを後方へスライドさせて行います。
このとき、「カチッ」という音がして正しくロックされるまで押し込んでください。



注意

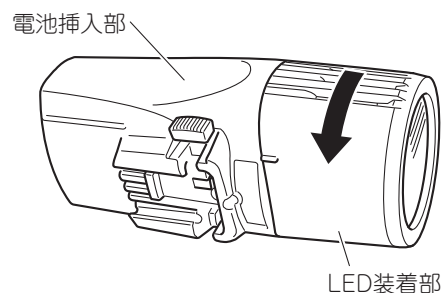
- 完全防水ではありませんので、雨天走行後などは水分をよくふき取ってください。
- 走行前に、ヘッドライト本体がブラケットに確実に固定されていることを確認してください。

ヘッドライトの取り扱い

電池交換のしかた

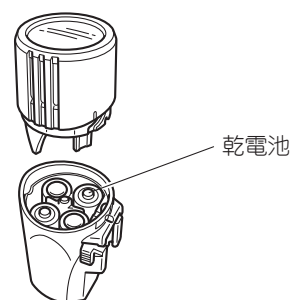
電池の交換は、以下の手順で行ってください。

- 1 ブラケットからヘッドライト本体を取り外します。
- 2 電池挿入部を片手で持ち、LED 装着部を反時計方向へ約 30°回転させて取り外します。



- 3 電池挿入部に入っている電池4本を新品に交換します。

使用乾電池：単3電池 × 4本
(アルカリ電池推奨)



警告

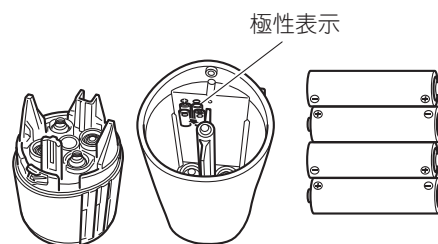
- 電池の取扱説明書をよく読んでください。
- 乾電池を入れるとき、「+」と「-」の極性を間違わないように、極性表示をよく確認して入れてください。
- 新旧の電池や種類が違う電池（アルカリ電池とマンガン電池）を混ぜて使用しないでください。

注意

- 使用推奨期限内の電池を使用してください。
- 使いきった電池は、すぐに取り外してください。
- 長期間（2週間以上）使用しないときは、電池を取り外してください。
- 電池の接点を定期的に清掃してください。

要点

使用済みの電池は分別廃棄してください。

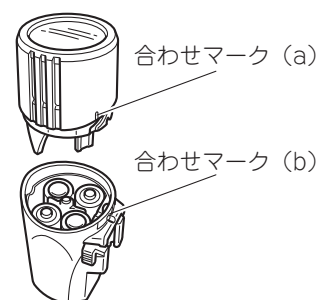


ヘッドライトの取り扱い

- 4 LED 装着部の合わせマーク (a) と電池挿入部の合わせマーク (b) を合わせて組み付け、LED 装着部を時計方向へ約 30° 回転させて組み立てます。

要 点

合わせ面にあるゴムリングがずれたり、はみ出したりしないように組み立ててください。



- 5 ヘッドライトが点灯することを確認します。
- 6 ヘッドライト本体をブラケットに取り付けます。

荷物の積載

荷物の積みすぎには注意しましょう。

PAS の最大積載重量（乗員の体重とリュックサックなどの身につけるバッグまたはオプションのリヤキャリアを使用した積載重量の合計）は 90kg です。また、オプションのリヤキャリアの最大積載重量と積載物の大きさの限度は下表のとおりです。
荷物を積みすぎるとバッテリーに過大な負荷をかけるために走行できる距離が短くなります。常時積載重量が大きい状態で使用すると、タイヤなどの部品の消耗が早くなります。

⚠ 警告

- 荷物の積みすぎは走行安定性を著しく低下させ危険です。また、はみ出した荷物は歩行者や自動車などに接触するおそれがあり、危険です。最大積載重量および積載物の大きさ限度をこえないようにしてください。
- オプションのリヤキャリアに荷物を積むときは、左右のバランスを考慮して積んでください。また、荷物がずれたり動いたりしないよう、確実に固定してください。荷物が動いて PAS が不安定になると、転倒などの事故につながるおそれがあります。

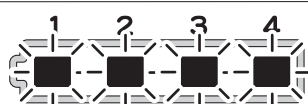
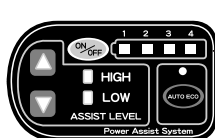


荷物の最大積載重量	リヤキャリア（オプション）	10kg まで
積載物の大きさ限度	幅	リヤキャリアの左右それぞれ 10cm
	長さ	リヤキャリアの前後あわせて 10cm
	高さ	リヤキャリアから 30cm

バッテリー残量ランプの表示と目安

⚠ 警告

- バッテリー残量ランプは、PAS システムのチェックも兼ねています。
メインスイッチを「ON」にしたとき、PAS システムに故障や異常があれば 4 灯同時に早い点滅をして、使用者に異常を知らせます。



バッテリー残量ランプ

- 異常表示（バッテリー残量ランプの 4 灯同時早い点滅）をした状態で走行を繰り返した場合、さらに大きな故障になったり、転倒などの事故につながる恐れがあります。
バッテリー残量ランプが異常表示をしている場合は、販売店にご相談ください。このときはアシスト走行はできませんが、バッテリーを取り外し、自転車としての走行はできます。

この PAS は、メインスイッチとバッテリーボックスのバッテリー残量ランプの両方で、バッテリー残量を同じように表示することができます。

メインスイッチのバッテリー残量ランプは、メインスイッチを「OFF」の状態から「ON」にすると約 2 秒間 4 灯点灯し、その後バッテリーの残量を表示します。

バッテリーボックスのバッテリー残量ランプは、ランプの横の「押」ボタンを押すことにより約 5 秒間残量を表示します。（バッテリーが車載状態でも、車両から取り外した状態でも同じです。）

バッテリー残量ランプは、バッテリー残量を次ページのように表示します。



メインスイッチの
バッテリー残量ランプ

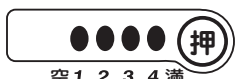
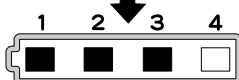
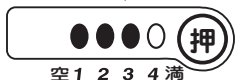
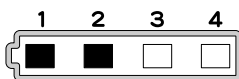
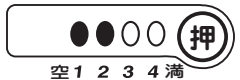
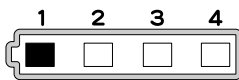
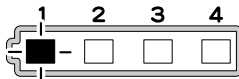
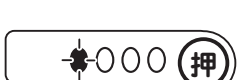
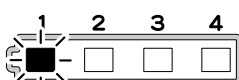


バッテリーボックスの
バッテリー残量ランプ

バッテリー残量ランプの表示と目安

バッテリー残量ランプの表示とバッテリー残量の目安

※バッテリー残量ランプはバッテリーの残量やアシスト走行できる距離の目安を表示します。

メインスイッチの バッテリー残量ランプ表示	バッテリーボックスの バッテリー残量ランプ表示	バッテリー 残量	目 安
 4 灯	 空 1 2 3 4 満	100 ~ 75%	アシスト走行できます 満充電からメインスイッチを「ON」のまま連続走行すると1灯ずつ点灯数が減ります。
 3 灯	 空 1 2 3 4 満	74 ~ 50%	
 2 灯	 空 1 2 3 4 満	49 ~ 25%	
 1 灯	 空 1 2 3 4 満	24 ~ 11%	
 遅い点滅（1 灯） < 0.5 秒毎 >	 空 1 2 3 4 満	10 ~ 1%	充電時期のお知らせ バッテリー残量が残りわずかです。そろそろ充電しましょう。 ※まだしばらく（平坦路約 500m ~ 2km）はアシスト走行できます。
 速い点滅（1 灯） < 0.2 秒毎 >	 空 1 2 3 4 満	0%	アシスト走行停止 バッテリー残量がなくなりました。メインスイッチを「OFF」にして走行し早めに充電してください。 ※PAS のアシストは停止されますが、自転車として走行することができます。

要 点

- 上記のバッテリー残量の数値（%）は、新品バッテリーのときの状態です。バッテリーが古くなれば、残量表示の精度はしだいに悪くなります。
- 古くなったバッテリーを使っている場合、発進時にメインスイッチのバッテリー残量ランプの表示が急激に少なくなることがありますが、これは故障ではありません。古くなったバッテリーの化学反応が、急激な負荷に追いつかなくなって起きる現象です。負荷が少なくなれば表示は安定します。

アシストが作動しない環境

こんなときはパワーアシストシステムは作動しません。

- 時速 24km 以上のスピードで走っているとき
- ペダルをこがないとき
- バッテリー残量がなくなったとき
(バッテリー残量ランプが 1 灯速い点滅をしてお知らせします。)
- メインスイッチが「ON」の状態でも 5 分間以上踏力がかからなかったとき



要 点

メインスイッチが「ON」でも 5 分間以上ペダルに踏力がかからない場合、パワーアシストシステムの回路は自動的に切れます (バッテリー残量ランプも消灯します)。復帰させるときは、メインスイッチを 1 回押してください。

駐輪のしかた

1 PAS を停車させます。

PAS が完全に停止してから、ブレーキを握ったままゆっくりと降車し、平坦で安定のよい場所に PAS を停車させます。

サドル前端をもってスタンドを立てます。

！ 警告

- 駐輪するときは、平坦で硬い路面に駐輪してください。また、駐輪後に PAS から離れるときは、PAS が安定して動かないことを確認してください。
傾いた路面や、砂利などの柔らかな路面に駐輪すると、PAS が動き出したり、転倒したりして事故につながるおそれがあります。
- スタンドを立てたら、必ずロックレバーをかけてください。

2 メインスイッチを「OFF」にします。

メインスイッチを 1 回押して「OFF」にします。

要 点

PAS は前進に比べ後進時はわずかに重くなります。

3 ワイヤーロックをかけましょう。(P75)

駐輪時や保管時には、盗難予防のために必ず付属のワイヤーロックをかけましょう。

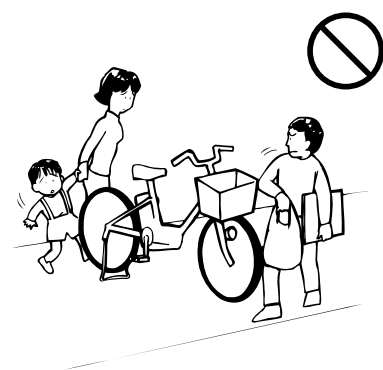
要 点

駐輪は必ず決められた場所へ

- 駐輪は、歩行者や自動車の迷惑にならない場所を選びましょう。
- 駐輪禁止の場所には停めないでください。
- 駐輪時は盗難予防のため、必ずワイヤーロックをかける習慣をつけましょう。
- 予備キーは紛失しないように別の場所に大切に保管してください。

メインスイッチは「OFF」にしてください

- メインスイッチの切り忘れは、バッテリーの放電をはやめます。このため次回乗車時に充電不足によりパワーアシストシステムが作動しなくなることがあります。



ワイヤーロックの使いかた

このPASには、ワイヤーロックが付属されています。

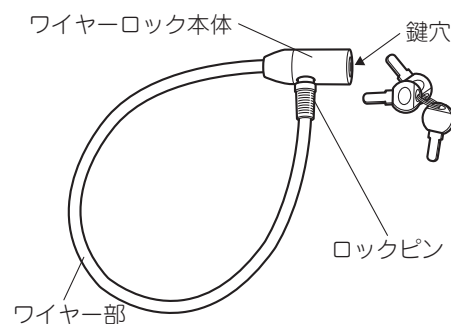
駐輪などのときは盗難抑止のため、このワイヤーロックを使用してください。

要 点

ワイヤーロックのキーは、バッテリーロックのキーと共通です。

かけかた

- 1 キーをワイヤーロック本体の鍵穴に差し込み、時計方向に回すと、ロックピンがワイヤーロック本体から外れます。
- 2 ワイヤー部を適切な施錠部（駐輪場のサイクルホルダーなど）とフレームをしばるように巻きつけ、ロックピンをワイヤーロック本体に差し込んで施錠します。



要 点

施錠した後は、忘れずにキーを抜き取ってください。

解除のしかた

ワイヤーロックの解除は、かけかたと同じ要領で行います。

ワイヤーロックを取り外した後は、ワイヤーロックをバッグなどに入れるか、ゆるみがないようにフレームの安全な場所に巻きつけて持ち運んでください。

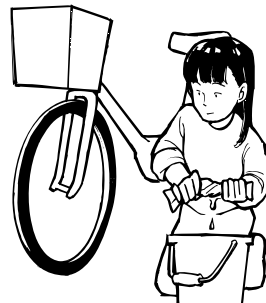
お手入れのしかた

各部のお手入れ

注意

水洗いについて

PAS は日常防水性能を備えていますが、スチーム洗車をしたり水道ホースでの洗車など直接圧力のかかることはしないでください。直接パワーアシストシステム部やバッテリー部にかけて、すきまからパワーアシストシステム構成部品の内部に水が入り、故障の原因となることがあります。万一、パワーアシストシステム機構が水に浸かった場合は、販売店で点検を受けるようにしましょう。



●金属部のお手入れ

スポークなどの金属部は、防錆剤（ヤマハ防錆潤滑剤 ME-180 など）を布に吹きつけてふきます。

警告

ブレーキの制動面やタイヤ、リムなどに防錆剤やワックスなどの油脂類を付着させないでください。油脂類が付着するとブレーキのききが悪くなり、衝突・けがのおそれがあります。

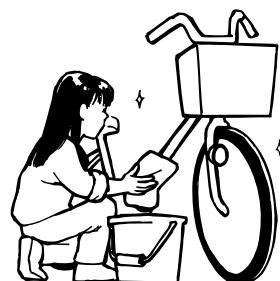


●フレームなどの金属塗装部のお手入れ

金属製の塗装された部分は、汚れをしっかりと取り除き乾いたタオルに少量のワックスをつけてみがきます。油は光沢をなくしますので、塗装部にはつけないでください。

注意

タイヤ・ブレーキシューなどのゴム類には絶対にワックスを付着させないでください。（ワックスなどでタイヤをみがくとヒビ割れの原因となります。）

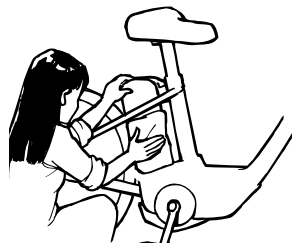


●バッテリー部のお手入れ

バッテリーケースの汚れは、水を含ませ固く絞ったタオルなどでふき取るようにしましょう。ホースなどで直接水をかけたりしないでください。

注意

底部の接点をヤスリで磨いたり、針金などでそうじしないでください。故障の原因となるおそれがあります。



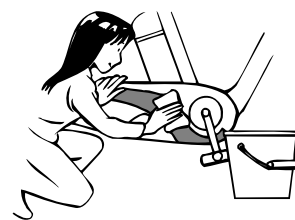
お手入れのしかた

●樹脂カバー類のお手入れ

樹脂製のカバー類は、水を含ませ固く絞ったタオルなどで汚れを取り除きます。

注意

ガソリン、灯油、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などを付着させないでください。ヒビ割れなどの原因になります。



●フロントフォークのお手入れ

水抜きについて

フロントフォークのスムーズな動作を保つため、雨天走行後はフロントフォークの水抜きをお勧めします。

警告

- 周囲に他の人がいないことを確認して、作業を行ってください。
- 車両を立てたり戻したりするときは、ペダルやスタンドが体に当たってケガをしないよう、注意してください。

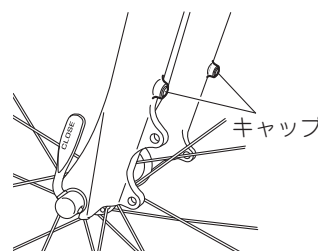
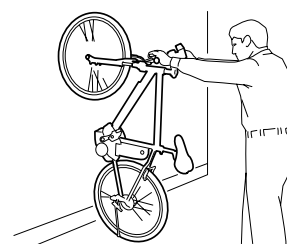
注意

水抜き作業は、十分な強度をもった壁を利用して行ってください。

水抜きのしかた

車両を立てて壁に前輪を当て、ハンドルを壁側へ押してフロントフォークを動作させると、左右フロントフォークの下側後方にあるキャップ部から水が排出されます。

10 回ほどフロントフォークを動作させ、水を抜いてください。



お手入れのしかた

注油場所と注油禁止場所

⚠ 警告

ブレーキの制動面やタイヤ、リムには注油しないでください。ブレーキが効かなくなり、衝突・けがのおそれがあります。

注意

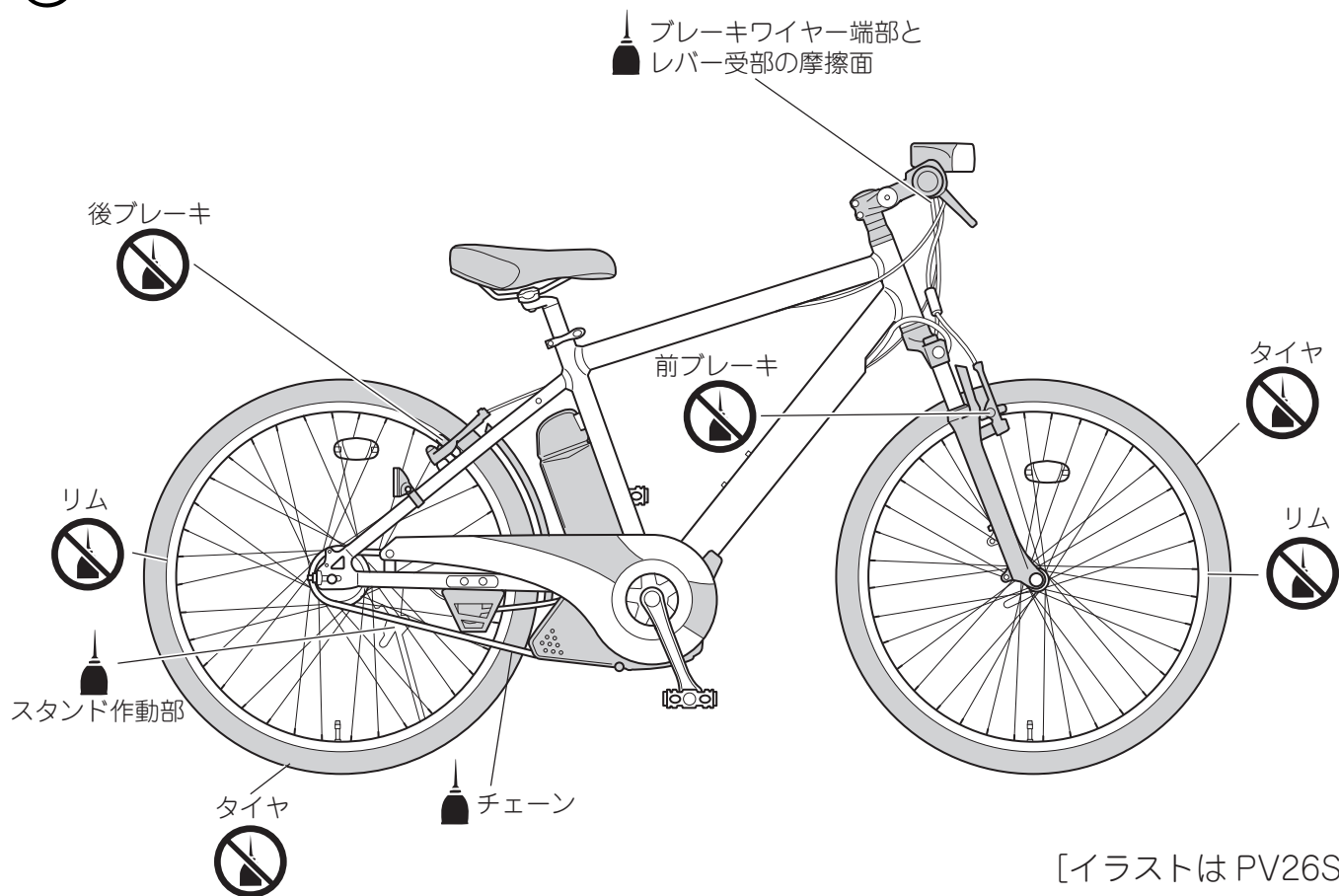
注油は決められた場所に少量を注油します。多すぎると、ホコリを付着させ、故障の原因になります。



マークは注油場所を示します。



マークは注油禁止場所を示します。

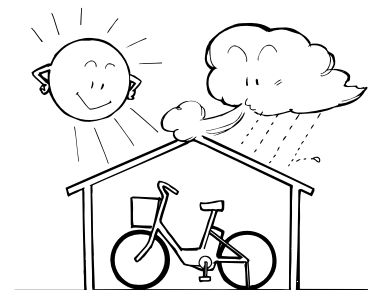


[イラストは PV26S]

保管のしかた

日々の保管のしかた

- 保管場所は慎重に選びましょう。
 - 平坦で安定のよいところ
 - 風通しがよく、湿気のないところ
 - 雨つゆや直射日光が当たらないところ



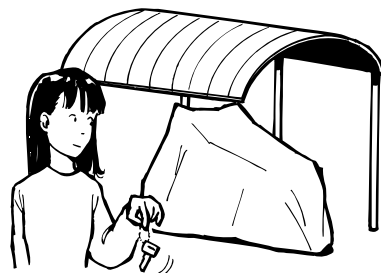
- メインスイッチを「OFF」にしましょう。

注意

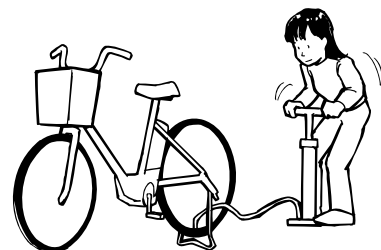
メインスイッチの切り忘れは、バッテリーの放電をはやめます。このため次回乗車時に充電不足によりパワーアシストシステムが作動しなくなることがあります。

- ワイヤーロックをかけましょう。
保管するときは、いたずらや盗難を予防するために必ずワイヤーロックをかけましょう。(P75)

- PAS にカバーをかけましょう。
保管するときは、ほこりや水を防ぐために専用サイクルカバー（別売）をかけましょう。



- タイヤに十分な空気を入れましょう。
保管するときは、タイヤの傷みを防ぐために十分な空気を入れましょう。

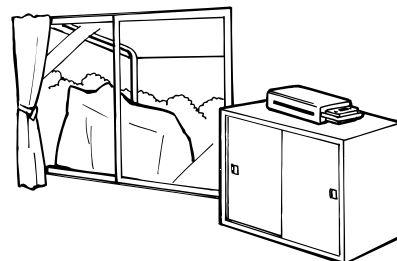


保管のしかた

長期間保管するときのバッテリーの取り扱い

長期間（1 か月以上）PAS を使用しないときは、以下の要領でバッテリーを保管してください。

- 車両から取り外し、室内の涼しく（10 ～ 20℃）湿気のない場所で保管してください。



注 意

車両から取り外しておく場合、車両側のバッテリー装着部にほこりなどが付着しないよう、また端子などに水滴がついて錆びないように、サイクルカバー（別売り）をかけましょう。

- バッテリーの残量を 1 ～ 2 灯の状態にして保管ください。
- 月に一度はバッテリー残量を確認してください。
1 灯点滅になっていれば 10 分程度充電し、残量が著しく低下しないようにしてください。

要 点

- バッテリーは「満充電」または「空」の状態で放置すると消耗が早まります。
- 保管時も自己放電によりわずかずつ放電し、容量が低下します。

長期間保管して再使用するとき

長期間（1 か月以上）保管して再び使用する場合は、使用する前日に必ず充電をしてから乗るようにしましょう。（通常の充電よりも若干時間がかかる場合があります。）
また 6 か月以上保管して再び使用する場合は、販売店で点検・整備（有料）をお受けになってからご使用ください。

もしもこんなときは

パワーアシストシステム

症 状	チェック	対 応
ペダルが重い。	メインスイッチの電源は入っていますか？	メインスイッチを「ON」にしてください。(P41～42)
	バッテリーは入っていますか？	充電済のバッテリーを入れてください。(P30～31)
	充電はしてありますか？	充電をしてください。(P32～35)
	メインスイッチの電源を入れたあと、踏力をかけない状態が5分以上続いていますか？	メインスイッチを1回押して「ON」にしてください。
	夏場の長い坂道や重い荷物を積載して走行していませんか？	バッテリーまたはドライブユニットの温度が上がったための制御で異常ありません。バッテリーまたはドライブユニットの温度が下がれば、アシストは回復します。またシフト位置を、通常使用しているシフト位置よりシフトダウンしてご利用いただくと、症状が出にくくなります。(例：＜2＞→＜1＞速にする)
	気温が低く（約10℃以下）ないですか？	冬期はバッテリーを屋内で保管し、使ってください。
	タイヤの空気圧は充分ですか？	不足していたら空気を入れてください。

もしもこんなときは

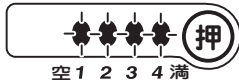
症 状	チェック	対 応
走行中にパワーアシストシステムが作動したり切れたりする。	バッテリーロックが確実にロックされていますか？	バッテリーロックが確実にされているか確認してください。(P31) ↓ バッテリーロックが確実にされていても同じ症状のときは、バッテリー端子や配線のゆるみが考えられます。 ➡販売店にご相談ください。バッテリーを取り外して、通常の自転車として走行できます。
	オートエコモードプラスになっていませんか？	オートエコスイッチを1回押してオートエコモードプラスを「OFF」にしてください。
パワーアシストシステムからガーガー、ガリガリなどの異音がする。		パワーアシストシステム内部のトラブルが考えられます。 ➡販売店にご相談ください。
パワーアシストシステムから煙や異臭がする。		パワーアシストシステム内部のトラブルが考えられます。 ➡販売店にご相談ください。
バッテリー残量ランプが4灯速く点滅する。 (約0.2秒間隔)		エラー信号またはパワーアシストシステム内部のトラブルが考えられます。 ↓ メインスイッチの電源を入れたあと、5分間放置してください。自動的にバッテリー残量ランプは消灯します。(P73) ↓ バッテリー残量ランプ消灯後、メインスイッチを1回押して「ON」にします。 ➡回復しない場合は販売店にご相談ください。 メインスイッチを「OFF」にして、通常の自転車として走行できます。

もしもこんなときは

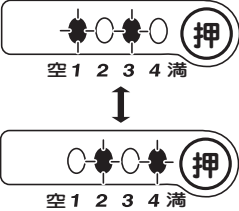
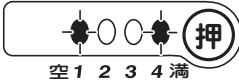
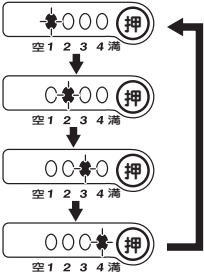
症 状	チェック	対 応
アシストはするが、バッテリー残量ランプが全部消灯している。	車両のバッテリー接続端子が汚れていませんか？	バッテリーを取り外し、車両側の端子を乾いた布や綿棒などで清掃後、もう一度バッテリーを取り付けてください。 ➡回復しない場合は販売店にご相談ください。
航続距離が短くなった。	十分に充電が行われていますか？	満充電になるまで充電してください。(P32 ~ 35)
	温度が低いところで使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。また、バッテリーを暖かい室内で保管しておいて使用すると、この症状を軽減することができます。(P20)
	バッテリーの消耗	バッテリーを交換してください。(P22 ~ 23)
走行中にバッテリー残量ランプが突然一気に減った。 (例：バッテリー残量ランプが3灯から1灯点滅)	冬場や急な上り坂などでの使用による電圧低下	バッテリーの特性によるものです。1灯点滅になっても、普段と変わらない距離が走行できます。(アシストが弱くなる場合があります) また、一度満充電にすると使用を続けることができます。
	バッテリーの消耗	バッテリーを交換してください。(P22 ~ 23)
アシストレベルランプが“LOW”または“HIGH”表示のまま、遅く点滅する。 (約0.5秒間隔)		シフトポジションセンサーの調整位置のずれが考えられます。アシスト走行は可能ですが、最適なアシスト力となりません。 ➡販売店にご相談下さい。

もしもこんなときは

PAS 専用充電器

症 状	チェック	対 応
充電できない。	電源プラグはしっかり接続されていますか？ また、バッテリーは確実に差し込んでありますか？	もう一度、接続をやりなおして充電してください。(P32～35) ↓ それでも作動しない場合は、充電器の故障が考えられます。 ➡ 販売店にご相談ください。
	バッテリー残量ランプは点灯していますか？	充電方法を確認して、もう一度充電してください。(P32～35) ↓ それでも作動しない場合は、充電器の故障が考えられます。 ➡ 販売店にご相談ください。
	充電器とバッテリーの接続端子がよごれていませんか？	バッテリーを取り外して充電器のプラグをコンセントから抜き、充電器とバッテリーの接続端子を乾いた布や綿棒などで清掃後、もう一度、接続をやりなおしてください。 ➡ 回復しない場合は販売店にご相談ください。
バッテリー残量ランプが4灯同時に点滅する。  空 1 2 3 4 満	故障ではありません。	充電待ちの状態です。そのままお待ちください。(P34) しばらくするとランプが4灯同時点滅から点灯に変わり、充電を開始します。
充電したが、メインスイッチのバッテリー残量ランプが4灯点灯しない。	走行直後など、バッテリーの温度が高い状態で充電を開始していませんか？	場所を変えるなどして充電可能な温度 (0～30℃) の場所で、もう一度充電してください。(P28、P34) ➡ 回復しない場合は販売店にご相談ください。

もしもこんなときは

症 状	チェック	対 応
充電中に、バッテリー残量ランプが交互に点滅する。 	接続端子の接触不良が考えられます。	一旦、充電器からバッテリーを取り外して、バッテリー残量ランプ横にある「押」ボタンを押し、バッテリーの残量を確認してください。 4 灯点灯ではないことを確認し、再度バッテリーを充電器に差し込んでください。 ↓ それでも交互に点滅をしている場合は、充電器の故障が考えられます。 ➡販売店にご相談ください。
バッテリー残量表示ランプ 1 灯（左端）と 4 灯（右端）が同時に点滅している。  バッテリーを充電器に接続したとき、バッテリー残量ランプが 1 灯（左端）→ 2 灯（左から 2 番目）→ 3 灯（右から 2 番目）→ 4 灯（右端）と、順番に点滅している。 		バッテリーの保護機能が作動して、使用できない状態になっています。できるだけ早めに販売店でバッテリーを交換してください。（P22） ● 温度異常 バッテリーの温度が異常に高くなった。 ● バッテリー電圧異常 バッテリー電圧が高過ぎる、または低過ぎる。 ● バッテリー劣化 バッテリーが著しく劣化している。

もしもこんなときは

症 状	チェック	対 応
充電器から異音や異臭、煙が出る。		電源プラグを抜き、ただちに使用を中止してください。 ➡ 販売店にご相談ください。
充電器が熱くなる。	充電中は多少の熱を持ちます。 (約 40 ～ 60℃になる場合がありますが、故障ではありません。)	手で触ることができないような高温の場合は異常が考えられますので、電源プラグを抜いて、ただちに使用を中止してください。 ➡ 販売店にご相談ください。
充電終了後、バッテリーの「押」ボタンを押してもバッテリー残量ランプが全部点灯しない。	充電の途中で、電源プラグまたはバッテリーを抜きましたか？	再度、充電してください。

定期点検／普通自転車点検整備済み TS マーク

定期点検

点検・整備は販売店で行ってください。

● 2 か月目（初回）点検

お買いあげいただいた PAS は工場で厳密な検査を施した後に出荷されていますが、まれに使用後 1 ～ 2 か月の間に、ボルトなどのゆるみが生じることがあります。この期間内に、お買いあげいただいた販売店に PAS と保証書／点検・整備の記録をお持ちの上、点検・整備を受けてください。お買いあげいただいた販売店での実施に限り無料です。（使用状況などにより部品の交換が必要な場合は、有料となる場合がありますので、あらかじめご相談ください。）

● 定期点検

いつまでも PAS を大切にお乗りいただくために、お買いあげいただいてから 6 か月目以降は、半年ごとに定期点検を受けましょう（有料）。消耗した部品や、異常箇所をそのままにしてお乗りになると大変に危険です。定期点検は人間でいえばいわば人間ドックのようなものです。定期的に点検をすることで、PAS の優れた性能をいつまでも引きだしていただけます。また、定期点検を実施していない場合には保証の適用を受けられないことがありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 警告

- ブレーキは最も重要な機構です。乗車前点検に加え、定期的に販売店での点検を受けるようにしてください。
- 後輪がローラーブレーキの車（後輪ブレーキにラベルが貼ってあります）では、1 年毎に専用グリースの充填が必要です。専用グリースの充填については、販売店にご相談ください。
- ブレーキワイヤーについては異常がなくても、2 年毎に交換してください。

普通自転車点検整備済み TS マークについて（新車には貼付されていません）

自転車安全整備店で点検整備を行い、基準に適合した安全な自転車にこのマークを貼ることができます。（有償です。）

このマークには、傷害保険と賠償責任保険が付帯されており、万一の事故の際に利用することができます。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



保証制度／型式認定済マーク

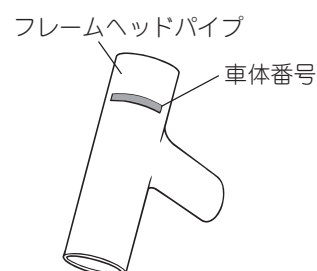
保証制度

お買いあげいただきましたヤマハ〈PAS〉を構成する純正部品に、材質または製造上による不都合が生じた場合は、消耗部品を除き保証書に示す条件に従い、その部品の交換または補修により無料で修理を行います。詳しくは保証書をご覧ください。

各番号の記載場所

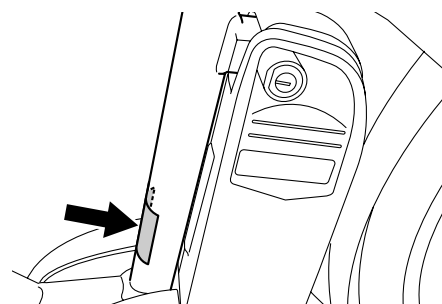
● 車体番号

フレームヘッドパイプの正面に打刻してあります。防犯登録には、この番号をお使いください。



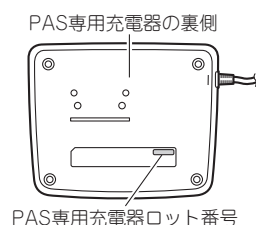
● PAS 号機番号

フレーム縦パイプ前方下側に貼付してあります。



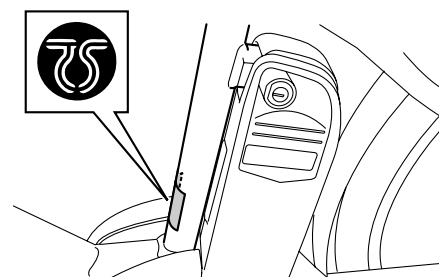
● PAS 専用充電器ロット番号

充電器の裏側に記載してあります。



型式認定済マーク

このマークは、道路交通法の規定に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にのみ表示されるものです。
このマークには、保険は付帯していません。



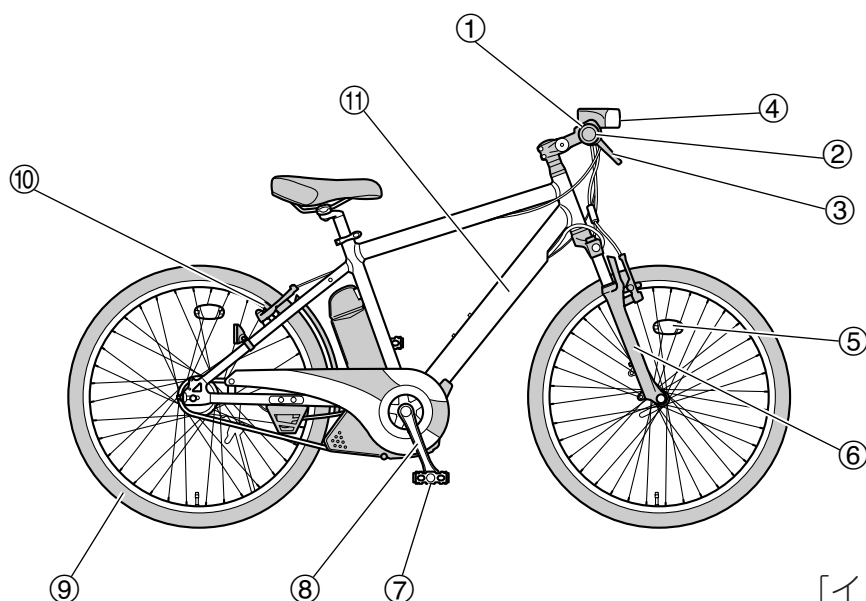
BAA マーク

PAS には「BAA マーク」が貼付されています。

BAA マークが貼付された自転車は、安全で長持ちする自転車を目指し、社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は、製造・輸入事業者の責任で補償致します。（社団法人自転車協会が直接利用者の皆様への補償を致すものではありません。）



自転車安全基準の主な内容



[イラストは PV26S]

① グリップ

雨天時でも、グリップが回転したり、抜けたりしないか離脱力を確認。

② ハンドル

駐輪場で転倒してもハンドルが破損しないか、10kg のおもりを 500mm から落下させる衝撃試験により確認。

③ ブレーキ

ブレーキワイヤの切断強度（1.5kN 以上）、繰返し強度（15kg のおもりを 10,000 回上下）を確認。

④ 前照灯

夜間の無灯火自転車による衝突事故を防止するために、自動または手元で点灯操作ができる前照灯を装着。また、必要な明るさが確保されているか性能を確認。

⑤ リフレックスリフレクター

夜間の走行安全性を考慮し、リヤリフレクターに加えフロントリフレクター、ペダルリフレクターおよび側面 2ヶ所にサイドリフレクターの装備を義務づける。フロントリフレクターは、夜間前方 100m から反射光の視認性を確認。

BAA マーク

⑥ 前ホーク

前ホークの強度を確認するために、前ホークの耐久試験（± 440N [非鉄系は± 600N] の荷重を 50,000 回）を実施。

⑦ ペダル

樹脂製ペダルの強度を確認するために DIN（ドイツ規格）にならい、ペダル体引抜試験、衝撃試験を実施。

⑧ ギヤクランク

ギヤクランクの強度を確認するために、静荷重試験（1500N）、動的試験（1400N の踏力を合計 75,000 回）実施。

⑨ 車輪

車輪の強度、品質を確認するために、縦振れ、横振れの許容値（1.5mm 以下）を強化、車輪の静荷重試験（側方に 300N の静荷重）、ハブの回転摩耗試験、タイヤのリム外れ試験を実施。

⑩ 制動性能

晴天時はもちろん、雨天時にも安全円滑に停止できるよう、制動性能規定を DIN（ドイツ規格）並に強化。

⑪ フレーム

フレームの強度を確認するために JIS の耐振性試験に加えて、DIN（ドイツ規格）のフレーム動的試験を実施。

○ ねじ

粗悪なネジを排除するために、ネジの強度を確認。

* 1N（ニュートン）は、約 0.102kg の力を表します。

* DIN は、ドイツ規格協会が制定する国家規格であり、主要部品の強度・耐久性や制動性能試験、各種表示などに特徴がある。

ヤマハ PAS 盗難保険について

「ヤマハ PAS」はお客様のご負担なしで、全車盗難保険が付帯されています。「ヤマハ PAS」の新車をお買い上げいただいたお客様を対象に、ご購入日より3年以内に盗難事故にあわれた場合、所定の自己負担額（「盗難保険の補償内容」を参照ください。）をご負担いただくことで、盗難された車両と同タイプの新車をお求めいただけます。詳細は下記の通りです。

ご購入時、取扱説明書に添付されている「お客様登録票」（盗難保険カード）をもれなくご記入の上、7日以内に郵便ポストに投函してください。ご返送いただかない場合、盗難保険の補償が受けられません。

なお、保険証書等は発行されませんので、[保証書]を大切に保管してください。盗難事故発生時に必要な書類となります。

1. 盗難保険の補償期間

お買い上げの日（保証書記載日）から3年後の応当日の24時まで（「ご継続」はございません）

2. 盗難保険の補償内容

①PASが盗難にあった場合

所定の自己負担額*をご負担いただくことで、同型の新車を提供します。ただし、部品、別売り付属品は対象外となります。（同型車が販売中止などの場合、同等品になる場合があります。なお、同型車のメーカー希望小売価格が上昇した場合、同等品が盗難された車両のメーカー希望小売価格より高い場合は、差額をご負担いただきます。）

※ご購入日より、1年目および2年目…専用充電器価格を除く本体価格の30%、3年目…専用充電器価格を除く本体価格の50%

②PASの盗難車が発見された際に、車両に損害が生じていた場合

修理費×87%－所定の自己負担額（ご購入日より、1年目および2年目…専用充電器価格を除く本体価格の30%、3年目…専用充電器価格を除く本体価格の50%）をお支払いします。

◆お客様には修理費×13%＋所定の自己負担額（ご購入日より、1年目および2年目…専用充電器価格を除く本体価格の30%、3年目…専用充電器価格を除く本体価格の50%）をご負担いただきます。

◆修理費がメーカー希望小売価格（本体）を上回る場合には、上記①と同様の取り扱いとなります。

ヤマハ PAS 盗難保険について

3. 盗難事故にあわれた場合の対応（盗難保険手続き要領）

- ① すみやかに最寄りの警察署へ「盗難届」をご提出ください。
- ② お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。
※盗難発生の日から 30 日以内にご連絡いただかない場合、保険が適用されないことがありますのでご注意ください。
- ③ 盗難保険手続きに必要な以下の書類を添えて、お買い上げいただいた販売店までご提出ください。

【提出書類】

- 届出警察署発行の盗難証明書、または届出日・届出警察署・盗難日・受理番号を記載した書面
 - 盗難車の保証書（写しでも可）
 - 盗難保険手続き依頼書（販売店からご案内いたします）
 - その他必要書類
- ※書類が到着後、調査期間として約 1 ヶ月かかることがありますのでご了承ください。

4. 盗難車の所有権

「盗難車が発見された場合、その所有権は保険会社に帰属すること」に同意いただいた上で、お手続きください。

5. 盗難保険が適用されない主な場合

- ① 提出書類が全てそろわない場合。
- ② 部品等、本体の一部のみに生じた盗難による損害。
- ③ 車両所有者の故意、重大な過失、所有者の親族・使用人などによる盗取。（加担した場合を含む）
- ④ 警察が盗難としての届出を受理しない場合。
- ⑤ 地震、風水害、火災、暴動に起因して発生した盗難事故など。

* なお、上記は保険の概要を記載したものであり、実際の保険金支払いに関しては盗難保険普通保険約款および特約条項に従います。

* 本商品は損害保険契約者保護機構の補償制度対象外であり、引受保険会社の破綻時の欠損状況により、保険金が減額、または保険金の支払いが一定期間凍結されることがあります。



製品仕様

諸 元			26 インチ	
			PV26S	PV26SL
寸 法	全 長		1,760mm	
	全 幅		530mm	
	サ ド ル 高		820 ～ 1,000mm	
	軸 間 距 離		1,115mm	
	タ イ ヤ サ イ ズ		26 × 1.5	
車 両 重 量			22.2kg	23.5kg
性 能	補助速度範囲 (変速機が③のとき)	比例補助	0km/h 以上～ 10km/h 未満	
		逡減補助	10km/h 以上～ 24km/h 未満	
	一充電あたりの走行距離*		15km**/22km***	30km**/44km***
電 動 機	形 式		ブラシレス DC 式	
	定 格 出 力		240W	
補 助 力 制 御 方 式			踏力比例制御方式	

- * 一充電あたりの走行距離に関しては、(社)自転車協会の電動アシスト自転車一充電あたり走行距離の表示及び測定に関する規定並びに適用規則に基づき、旧規定と新規定を併記しています。
- ** 標準パターンで走行した場合<バッテリー新品、常温 15 ～ 25℃、車載重量（乗員および荷物を合計した重量）65kg、平滑乾燥路面、無風、無点灯状態で、メインスイッチをパワーモード（強モード）にして走行したときの弊社データ>
- *** 一般路走行パターンで走行した場合<バッテリー新品、常温 25℃、車載重量（乗員および荷物を合計した重量）60kg、平滑乾燥路面、無風、無点灯状態で、メインスイッチをパワーモード（強モード）にして走行したときの弊社データ>

製品仕様

諸 元			26 インチ	
			PV26S	PV26SL
蓄電池	形 式		リチウムイオン電池	
	容 量		25.2V、4Ah****	25.2V、8.1Ah*****
充電器	形 式		スイッチング・レギュレーター式 /AC100V	
	消 費 電 力		70W	
	充 電 時 間		約 2 時間 *****	約 4 時間 *****
変 速 機 方 式			リヤハブ、内装 8 段	
駆 動 方 式			チェーン式	
制 動 装 置	前		V ブレーキ	ディスクブレーキ
	後		V ブレーキ	
照 明 装 置			乾電池式ライト (CAT EYE)	

**** バッテリー容量表示の数値について

取扱説明書の記載数値；4 Ah

バッテリーのラベル表示数値；定格 3.8 Ah (Typ. 容量として 4.0 Ah という表示もあり)

電気用品安全法においては、JIS C8711 に規定されている試験によって測定した定格容量を当該製品（バッテリー）の表面に表示するように定められています。

これに対して弊社の PAS では、取扱説明書に記載されている一充電あたりの走行距離の一般路走行パターンにて走行した場合に使用できる電池容量の平均値を、PAS 用バッテリーの Typ. 容量（代表容量）とすることを社内基準としております。

この電気用品安全法の規定と弊社社内基準の差が、表示数値の差が出る理由となっています。

***** バッテリー容量表示の数値について

取扱説明書の記載数値；8.1 Ah

バッテリーのラベル表示数値；定格 7.6 Ah (Typ. 容量として 8.1 Ah という表示もあり)

電気用品安全法においては、JIS C8711 に規定されている試験によって測定した定格容量を当該製品（バッテリー）の表面に表示するように定められています。

これに対して弊社の PAS では、取扱説明書に記載されている一充電あたりの走行距離の一般路走行パターンにて走行した場合に使用できる電池容量の平均値を、PAS 用バッテリーの Typ. 容量（代表容量）とすることを社内基準としております。

この電気用品安全法の規定と弊社社内基準の差が、表示数値の差が出る理由となっています。

***** 長期放置後の充電時は電池の状態により充電時間が延びますが、バッテリー残量ランプが交互に点滅していなければ故障ではありません。

お買いあげいただいた PAS の記録

車体番号（表示場所は P88 参照） _____

PAS 号機番号（表示場所は P88 参照） _____

PAS 専用充電器ロット番号（表示場所は P88 参照） _____

キー番号 _____

（キーの作製については、お買いあげの販売店にご相談ください）



キー番号は、ここにあります。

防犯登録番号（防犯登録票から転記してください） _____

自転車用の賠償保険に加入しましょう。

詳しくは、保険会社にご相談ください。

サービスの実施

お買いあげいただいた販売店が点検・修理をはじめ、サービスのご相談などをお受けいたします。

お買いあげいただいた販売店

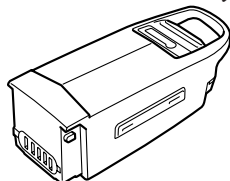
PAS 最新情報は； <http://www.yamaha-motor.jp/pas/>

バッテリーと充電器販売のご案内

◆バッテリー

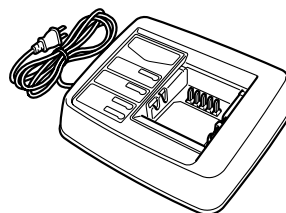
（注文番号：90793-25086）[PV26S 用]

（注文番号：90793-25090）[PV26SL 用]



◆充電器

（注文番号：90793-29077）



ご購入の際は、販売店にご相談ください。



ヤマハ発動機株式会社
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

再生紙を使用しています。
10.4 × 1